

魅力ある府立高校づくり推進基本計画(仮称)(中間案)に対するパブリックコメント

1 意見募集期間 令和5年10月2日(月)～令和5年10月27日(金)

2 意見提出者数 127人 288案件

3 御意見の要旨及びそれに対する府の考え方

御意見の要旨		府の考え方
第1章 基本的な考え方		
1 計画の趣旨 2 計画期間 3 計画の進め方		
1	計画には大賛成である。かねてより今後の高校の在り方については、以前より大きな変革が必要と考えていた。 北桑田高校のある地域は、生徒数が激減し、学校の存続自体が危ぶまれる状態である。しかし、環境面では、自然環境も含め申し分のない地域である。特に、インターネット環境が整備された現在は、学校の授業と併せて生徒のニーズに応じたサテライト授業が受けられる等、充実したシステムを利用して生徒が力をつけ、目指す進路を実現している。 充実した高校生活を送り、進路の幅を広げるためにも、以前より高大連携の推進を希望してきた。 課題は、広い地域から北桑田高校を目指す生徒はいるが、受け皿となる寮が小さく、受け入れきれない点である。寮の新設については既に進んでいる計画でもあるが、早期の新設が望まれる。 また、京都市中心地からの交通手段がJRバスのみであることも課題である。地下鉄延伸等の交通ルートの整備も望まれ、実現可能になれば通勤通学エリアとして北桑田高校が近づき、地域も移住対象となる。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
2	生徒数が激減する中、今後の取組の方向性が良く分かった。学校現場に関わる者として、情報を収集しながら、生徒の指導に当たっていきたい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
3	魅力ある府立高校づくりに向けて、しっかりと進めていくべきである。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
4	大学まで行くのが当たり前の時代になっている。私立高校より府立高校が大学へ行きやすいのかは分からないが、府立高校でも大学まで行きやすいような学校をつくってほしい。大学との付属は保護者は嬉しいし、増やしてほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
5	「府立高校の果たすべき役割」として、地域の実情を踏まえること、公教育の場として教育の機会を保障するという点については賛成である。 しかし「選択肢の多様性を確保することを第一義的に捉え、幅広く多様な生徒を受け入れ」ようとするのが、なぜ「一層の特色化」を図ることになるのか理解できない。先般実施された高校1年生向けのアンケートでは、生徒たちは学校選択の理由として「①自宅から近い・通いやすい②合格できそう③入学したい部活動がある」を挙げており、それぞれの高校の特色を理由に学校選びをしていないことは明らかである。また「合格できそう」という消極的理由で、家から遠い学校を選択せざるを得なかった生徒たちが、通信制などへの転学や中途退学をしていく実態についてもしっかり目を向けてほしい。 同アンケートでは、学校に期待することとして、「①基礎的・基本的な学力を身に付けること②大学等の進学のための学力を身に付けること③学校行事が充実すること」と答えている。これはすべての学校で実現されるべき内容である。誰もが自宅から通いやすい学校に行けて、基礎学力・大学等の進学のための学力をつけることを保障するのが公立高校の務めではないだろうか。学校ごとの特色に期待が集まっているわけではないことを正視し、多様化路線・特色化路線を見直すべきではないか。今一度地域と密接に結びついた公立高校づくりを目指すことで、小中学校との連携、地域の特別支援学校や各種福祉施設(児童相談所など)との連携もしやすくなる。不登校傾向のある生徒、特別な支援の必要な生徒(通級指導の必要な生徒)、ヤングケアラーなど福祉との連携が必要な生徒への手立ても、地域を基礎にしている方が対応しやすい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
6	この基本方針に対して賛同する。京都府北部地域は今後の少子化が懸念されており、さらなる活性化策が求められる。だからといって、TDLやUSJを作ったりスカイツリーを建てることはできない。むしろ地域活性化は「教育の力にまつべきもの」と考える。魅力ある義務教育学校や高等学校などが点在すれば、まだまだ北部の魅力回復の余地は十分あると考える。生徒数減少にどう対応するかという課題解決的な視点より、人を引きつけるほどの「素敵な学校づくり」をめざす前向きな気持ちで進みたい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
7	「基本計画」(中間案)のp.24のグラフに示されている通り、公立中学校卒業生の進路として、公立高校全日制が10年間で5.5%減っている一方で、私立高校全日制が1.7%、通信制が2.8%増えている。例年11月に行われる中学校卒業予定者の志望状況では、卒業予定者の人数は漸減しているのに、京都市立高校の志望者の合計はほとんど減っておらず、大きく減っているのは府立高校全日制である。 府立高校の比重が大きい京都府北部の中学3年生の減少率が大きいことを差し引いても、府立高校全日制が選ばれにくくなっているという現実是否定しがたい。なぜ中学3年生が府立高校全日制を選ばない割合が増えているのか、その原因を明らかにしない限り、「魅力ある高校づくり」の計画の実効性は疑わしい。この「基本計画」(中間案)や「在り方ビジョン」、在り方ビジョン検討会議と魅力ある府立高校づくり懇話会の記録を見ても、府立高校が選ばれにくくなっているのはなぜかという問いに対する明確な答えを見つげ出すことができない。 私立高校生に対するあんしん修学支援事業なども一因として考えられるのだが、京都府教育委員会が「魅力ある府立高校づくりに関する基本計画」の中でまず示さなければならないのは、「府立高校がその魅力を発揮できないのはなぜか」という問いに対する答えではないか。	府立高校を取り巻く現状課題を踏まえて、魅力ある府立高校づくりの基本方針をお示しております。御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。

御意見の要旨		府の考え方
8	教育を取り巻く環境・諸条件が大きく変化しており、京都府下でも、より良い教育を推進するために、不断の努力が必要である。 この「基本計画」は、直接的には府立高校づくりを策定するもの。同時に、通う高校生の学び方と、彼らの将来像、彼らが生活し、築き上げていく地域（京都府）の将来像にも関わる。また、やがて高校生になる中学生・小学生にもわかりやすくアピールできる内容が求められる。次の10年間を見渡し、速やかに示す必要があり、一方で訴えかける内容も備えていなければならない。そのように構想して、進めていただきたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
9	全国的に見ても少子高齢化が進む背景の中、公立、私立関係なく高校・大学の学校数過多が取り上げられている。一方で、授業料が高くても、受験をしてでも進学を志す学生、保護者もいる。 そのような学校と何が違うのか、何に魅力を感じさせるのか、分析をしていると思うが、府立高校として成功するために何をしていくのかを大々的に展開し周知度を高める必要があると感じる。 個人的には、メリットは学費面で、デメリットは学区の縛りであると感じる。同学区内の受験生が私立高校を選択するとそれだけで志望の母数は減る。学区の考えを取り払うことは荒い言い方だが、web授業が浸透してきている状況下では、進学希望者のニーズとしてはどこでも授業を受けられる状況が、当たり前になりつつあるのではないかと感じる。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
10	「すべての生徒が夢や希望を持ち、未来に向かっていきいきと学ぶことができる高校」を目指すという考え方に、大いに賛成である。この基本計画をもとに高校改革を推進してほしい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
11	地域への丁寧な説明は必要であるが他府県に比べてスピード感に欠ける。思い切った再編も必要ではないか。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
12	地域別等による実施計画が示されるまで、府民としては自分事として捉えにくいのではないかと。できる限り早期に実施計画を示していただき、統廃合、再編が魅力ある新たな高校づくりにつながるよう検討を進めてほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
13	特に口丹地域の学校の配置・役割の見直しは、地域のご理解を得ながら進めていただきたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。

御意見の要旨		府の考え方
第2章 今後の府立高校の在り方 1 全日制課程の魅力化と配置等の在り方 (1) 普通科・普通科系専門学科		
14	特色化・魅力化を進めた結果、中途半端に選びにくい学校が林立することを危惧する。通いやすい距離にある学校が自分に合わない、入りたい部活のある学校が学力的に合わない、といったことが現在も起こっているが、今後も多々起こってくるのではない。 普通科高校は、「普通科教育」を受けたい大多数の子どもの受け皿として、特色化を推進するよりも基本的な内容をおさえていただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
15	理系・文系というくりだけでなく、理科が得意な子のための学校、社会が得意な子のための学校や、勉強は苦手だが料理は好き等の子のため、社会人になった時に既に技術が身に付いている状態する学校もつくっていただきたい。 このほか、グローバル化する世の中でも生きていけるよう、学力に関わらず入学できるインターナショナルスクールを作っていただきたい。その際、ただ英語が話せることを目的とするだけでなく、英語でIT、料理、絵、音楽などを専門的に学べる学校を作っていただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
16	将来進みたい方向性が中学3年生の時点で決められない子のために、高校では普通科に入学したとしても、そこからより専門的な分野も学べるように、色々な選択肢に柔軟に変更できるような制度があれば良い。	御意見を踏まえ、府立高校の特色化及び魅力化を進めてまいります。
17	普通科と普通科系専門学科の違いが府民には分かりにくい。今回の改革を機に、普通科と普通科系専門学科を文部科学省が示す新しい普通科の3つの領域にわかりやすく分類し、各通学圏に配置することが望ましい。 また、他府県と比較すると京都府は大学進学率が高いため普通科・普通科系専門学科が多く設置されているが、今後は生徒数が減少するため、キャリア教育を軸とした視点を踏まえるならば、普通科と普通科系専門学科を減らし、職業学科と総合学科の割合を高める方が効果的だと感じる。	御意見を踏まえ、府立高校の特色化及び魅力化を進めてまいります。
18	家計が厳しく塾や予備校へいくことができない、学費の高い私立高校には入学できないなどの状況があるなか、有名大学に進学できたり、医者になれたりするような可能性を持てるのが公立の学校だと思っている。社会はとても不安定である。苦労している子どもたちが、将来大学に進学し、社会に誇れる仕事をして、貢献できるような希望をもてる学校をつくってほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の特色化及び魅力化を進めてまいります。
19	私立高校出身だが、公立高校でも難関大学を目指す高校があると聞くので、子どもにはそんな高校に行ってほしいと考えている。大学は全入の時代なので、少しでも高いレベルの大学を目指してほしい。公立でも横並びではなくて、難関大学を目指すコースを作らないと、充実している私立高校を選んでしまうとも思う。是非検討していただきたい。	御意見を踏まえ、府立高校の特色化及び魅力化を進めてまいります。
20	普通科の強みは、入学後にあらゆる進路に対応できる。逆に弱みは、特筆して際立った知識や技能が身に付かない。実際、在籍する生徒の状況は、「将来、何をしたいかわからない」「特別にできることがない」などの声もある。大学受験についても目的化しているようにさえ思える。普通科であれ、専門学科に近い形の学校が複数あってもよいのではないかと。例えば、1年次は基礎基本の一般的な教育課程を進め、2年次以降は専門学科同様の専門性を学ぶ、状況によっては国家資格に挑戦できるレベルの教育課程を設定するなどの普通科の設置も検討してほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の特色化及び魅力化を進めてまいります。
21	多様性に対応するため、様々なタイプの学校があってもよいと思う。これこそ、府立高校のスケールメリットが活かせるのではと思う。いくつかの例を挙げる。 ・トップ人材を育成する学校 ※SSH指定校やWWL拠点校などは、トップ人材育成を目指す。 ・インクルーシブ教育を推進する学校 ※長期欠席者選抜のように、選抜段階から別の選抜方法で入学できるようにする。例えば、大阪府立高校のように、療育手帳などを持つことを条件に、少人数を受け入れる自立支援コースを設置することも検討してほしい。 ・全日制と定時制や通信制の垣根を超えた単位互換ができる学校 ※愛知県が先進的に取組を始めると新聞掲載されていた。同様のシステムが京都でも作れないか検討してほしい。 ・穏やかな高校生活を送り、地元で進学、就職し、地域を支える人材を育成する学校 ※あまり、特化した学校ばかりでは、ボリュームゾーンである「普通」の生徒が通いたいと思える学校がなくなってしまう。勉強も部活動も、自分なりの目標に向け、無理せず穏やかに自分のできる範囲で頑張って、京都で進学、就職したいと考えている生徒が最も多いと思われる。特化しない学校があっても良いし、またそういった学校が一定数必要だと思う。	御意見を踏まえ、府立高校の特色化及び魅力化を進めてまいります。

御意見の要旨		府の考え方
22	基本方針に「普通科の魅力化、特色化を一層推進するために、既設の普通科または普通科系専門学科・コースを見直した新しい普通科(学際領域、地域社会に関する学科等)を各通学圏に設置する」とあり、高校の特色化を一層進めようとするのが、今回の改革の大きな方向であると認識している。 高校の多様化・特色化が提唱されて以来、様々な問題が指摘されてきた。学校の「特色化」は、実際にはいわゆる「学力の高い生徒」を獲得するための競争が行われ、大学進学者数やクラブ実績など目につく成果を求める傾向があった。その結果、かえって学校間の「格差」を広げてきた。「特色化」が上手くいったと評価された高校は志願者が多く高校入試での競争率が高い。しかし、そうでない高校は「特色化」の見直しを迫られ、志願者獲得、学力面や様々な課題を持つ生徒の指導に苦勞している。また、各高校の募集定員と志願者とのミスマッチが必ず生じ、「特色」ある高校を選ぶことができるのは一部の生徒で、大多数の生徒は倍率や学力で選択することになっている。そもそも、中学生段階での進路選択で、「特色」で高校を選び、生徒の学習意欲を高めることができるのか。 今、進められようとしている高校の「特色化」は、2019年5月の教育再生実行会議の「第11次提言」での「高校普通科の類型化」の提言が起点である。画一的な学びが生徒の能力や関心を踏まえておらず、学習意欲に悪影響を及ぼしていると指摘し、各校が教育目標を明確化したうえで、何を重視する高校かを打ち出し、生徒が学ぶ方向性を選択できるようにすることを求めた。 これに対して、朝日新聞(2019年5月21日)の社説「高校改革「個性」押しつける矛盾」理解に苦しむ構想」は、「上から型」にはめこむ「改革」は画一的な教育そのものだ。そこから特色ある高校が生まれるとは思えない」「そもそも自分の特性や志向を探り、可能性を大きく広げる途上にある中3生に、なぜ進路の絞り込みを急がせるのか。大学では逆に、入試時は文系か理系の大枠を選ぶにとどめ、学部は後で決めるなどの試みが始まっている。様々な学問に触れてから、どの道に進むか判断させよう。そんな考えが根底にある。高校がその逆をいって整合が取れるのか疑問だ」と述べた。 また、京都新聞(2019年5月21日)も社説「高校普通科改革 多様性を確保できるか」において、「類型化が進むと、目標が定まらない生徒と学校の特色とにミスマッチが生じたり、学校数の少ない地方では選択肢が十分になかったりする懸念がある。生徒たちの多様さや将来の可能性にかえって枠をはめてしまわないよう留意し、高校教育の在り方を幅広く議論すべきだろう」「類型化を進めると、中学卒業段階での高校選択の重みが一段と増す。生徒の興味や進路の希望は10代を通して大きく変わることが十分に考慮する必要がある。進学重視校の「エリート化」が加速する可能性もある。類型例を見ると、産業界が求める実学や人材育成を重視する「選別」のような動きを早期に持ち込むのではという懸念も拭えない」と述べた。 「高校普通科の類型化」は高校普通科の「画一化」を批判する中で提唱されたが、「類型化」はかえって「画一化」を招くことを、「上から型」にはめこむ…画一的な教育そのものの」「生徒たちの多様さや将来の可能性にかえって枠をはめ」かねないと批判している。また、「中3生に、なぜ進路の絞り込みを急がせるのか」「中学卒業段階での高校選択の重みが一段と増す」という懸念を表明している。 このような意見に耳を傾けるべきだと思う。	魅力ある府立高校づくりにおいては、生徒の多様なニーズや希望に対応した選択肢が提供できるよう特色ある教育活動を提供する視点と、学科等の魅力や特色を子どもたちに発信する視点が重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
23	教育学の基本である子どもの発達を促え、日々の教育を進めていくことをより重視すべきである。中学3年生段階で将来の進路を決めることは大変難しく、これは結果的に自分の可能性を狭めることになる。「新しい普通科」は学校間格差をより強く進めることになることは、この40年を振り返れば明確である。高校は後期中等教育であり、就職や高等教育につながる人格形成としての学問、科学の基礎基本を学ぶことこそ、最重視すべきである。細分化していくことは公立高校として、京都府の子ども全員を押し上げていくことにはならない。また、多くの高校生自身が「近くの学校」「普通の高校」を望んでいることも更なる乖離となる。	魅力ある府立高校づくりにおいては、生徒の多様なニーズや希望に対応した選択肢が提供できるよう特色ある教育活動を提供する視点が重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
24	基本方針の「普通科系専門学科においては、探究活動等を通して、高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる。」の文脈において「探究活動等」とする以上、最も重要視されているのは「総合的な探究の時間」であると感じるのは通常の流れではないかと思われる。しかしながら、総合的な探究の時間に対する教員定数は非常に少ない配置になっており、「高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる」ことは不可能である。探究の指導だけでも、10～20人の生徒に対して教員1名程度の配置が必要だと多くの現場が感じている。にもかかわらず、十分な教員配置が行われないことが、現状、探究活動や学びの特色化の発展を妨げている原因ではないか。そこに「高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる」ことを要求するのは過大である。教育カリキュラムの開発は非常に難しい作業であることも踏まえ、「普通科系専門学科においては、探究活動等を通して、高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる。」のために、生徒20人当たり1名、カリキュラム開発として1校に1名分の教員配置・定数の設定が必要であると考える。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
25	専門学科は致し方ないと思うが、普通科については、どこの高校に行っても同じレベルで同じような授業を受けられるようにしていただきたい。普通科に特色は必要ない。我が娘を自転車を通える範囲の地元の高校に通わせただけなのに、が、「あそこはレベルが…」と拒否したものの、結局進学した高校の進学一辺倒という雰囲気について行けずに広域通信の高校に転学せざるを得なくなった。	魅力ある府立高校づくりにおいては、生徒の多様なニーズや希望に対応した選択肢が提供できるよう特色ある教育活動を提供する視点が重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
26	数年前にこれまでのバス停方式から本人の希望で受験校を選択することができるようになった。それにより、各学校の偏差値に差が生まれ、中学入学当初から受験のために、学校からもプレッシャーを受け、みんな競って塾に通い、金銭的な負担が大きくなった。我が子も内申点にびくびくしながら中学校生活を送っている。 複数人の我が子を偏差値の異なる高校に入れているが、子どもたちの中で格差ができるが、学校へ行くと同じような子どもたちがいる。教員は指導がしやすいと思うが、これでよいのか。多様な人間がいて、初めて人間として社会で尊重し合える、人間が育つのではないか。高校でも生徒を良いとされている大学に行かせるのに必死でそれだけしか見ていないように感じる。今のシステムはおかしいと思う。	普通科における魅力化につきましては、生徒の多様なニーズや希望に対応した選択肢が提供できるよう特色ある教育活動を提供する視点や、高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる視点、学科等の魅力や特色を子どもたちに発信する視点が重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
27	私立高校では中高一貫及び大学への内部進学による生徒の囲い込みが激しい。府立高校としては「公立学校のスケールメリット」をこれまで以上に押し出す必要がある。スケールメリットとは何か、保護者や生徒には具体的かつ数値化して示してほしい。	府立高校の在り方ビジョンにおいて、「府立高校のスケールメリットを活かし、単独の高校では難しい取組を拡大し、学校・課程・学科間等での相互連携や交流を充実させることで、府立高校全体の魅力や学習環境の向上を図る必要がある」とお示しております。
28	公立高校の在り方として改善していただきたい点は、学力層による学校の住み分けと特色化の推進である。以下はその理由である。 現在の各公立高校が高みを目指そうとする方策には限界がきており、多くの学校が魅力を失っている。子どもがふんだんにいた時代はすべての学校が高い学力レベルを目指す方向でも成り立っていたと思われるが、生徒数が減った今、必要なのは「各生徒のレベルに応じた最適教育の提供」だと思う。つまりは、生徒の学力層に分けた、カリキュラム、メニュー、特徴を打ち出して、学力グループごとに特徴ある学校教育を提供することが、結局生徒一人一人のためになると、個別教育を数十年進めてきた私は確信をもって言える。 なお、ここでいう学校教育というのは、いい大学に合格させるという意味ではまったくなく、「それぞれの学力レベル、意識レベルに合わせた人間教育を提供する仕組み」という意味である。 現在、改革の方向は普通科教育の特色をもっと出し、魅力を増やすという点にあり、その点にはまったく異論がない。しかし、それだけでは不十分で、その横軸に入学者の「学力レベル・意識レベル」の縦軸が加わってこそ、その特色や仕組みがより機能すると考える。 私立高校は色々な方策で受け入れ生徒の学力レベルを設定し、その生徒レベルに応じた特徴あるカリキュラム設定や取組を大胆に行っている。そのことが私立高校ごとの学力コア層の住み分けや特徴になり、中学生やその保護者に「この学校に入れば、自分のレベルに合った教育が受けられ成長できる」という魅力を感じさせている。公立高校も学力上位層の中学生が選ぶ学校については、それができており、そのような学校の倍率はある程度維持されている。特にその必要性を感じるのは、学力下位層から中位層の生徒が入学するような公立高校である。それらの学校は、どの学力層をコア層と考えて、それに合う教育を提供しようとされているのかほとんど見えない。そのことが、オール3近辺の生徒が希望する公立高校が軒並み定員割れになってきていることと無関係とは思えない。極端に映るかもしれないが、「うちの学校はオール3の子を変えます」というような、対象レベルを強く意識した仕組みの提供が求められているのだと思う（ほとんどの公立校の見学、説明会に足を運んだが、その魅力を感じたのは、入試上位高以外では、残念ながらただ1校のみだった）。 対象とする生徒のコア層をぼんやりさせて、せっかくの特色を活かせない学校にするのではなく、学力コア層を想定した学校間の住み分けを構築し、何よりも教育を受ける側の生徒が、自分に合うと思える学校選択を可能にしていけることが、公立高校の魅力を増やすポイントだと考える。 各公立高校に足を運び感じたもう一つのことは、公立の良さ、人材の豊富さである。人材の幅が広く、多くの素晴らしい先生がおられることは私立高校では実現できない大きな魅力だと思う。そのような先生方の力が最大限生徒たちの教育に注がれること、そしてその仕組みができることを心から願っている。以上が、外部から見た公立高校への印象と改善要望である。	御意見を踏まえ、府立高校の特色化と魅力化を進めてまいります。
29	「本質的な普通科の特色化を進めるにはキャリア教育を軸として視点が必要」中、「キャリア教育を軸とした視点」に関し、都道府県の首長が積極的に関与すべきであると思料するが、首長の関与が明示されていないのは何故か、教えてほしい。	府立高校の関係事務については、府教育委員会が補助執行しているところですが、府立高校設置者である知事との協議の機会を活用しながら、府立高校の魅力化を進めてまいります。
30	感性を備えた人材を育成されたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
31	説明会での説明は、スライド等を用いた大変わかりやすいもので、理解を深めることができた。 全日制の高校について、北部と南部で基本方針を分け、ある程度の規模を維持しながら配置を見直していくことは重要なことだと思う。各校の魅力と特色を明確化し、学校ごとの役割を打ち出していくことも同様である。 ただし、これらは、入学者選抜方式の見直しと一体的に進めていかなければ、学びたいことを学べない、行きたい(行ける)学校がないという事例が発生し、府立高校の魅力を減じることになるのではないかとという危惧もある。さらに、選抜の改革より特色化が先行してしまうと、上記のような、中学生から見た府立高校に対するマイナスイメージが定着してしまい、後から選抜を改革しても、そのマイナスが解消されないのではないかと、という一抹の不安も拭えない。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
32	島根県や山口県みたいに全国から生徒を募集できるようにすれば、生徒にとって価値観が広がるのではないかと。「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」に続く「学びの京都」とでもいってみたいはどうか。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。

御意見の要旨		府の考え方
33	「圧倒的に多くの生徒が普通科に入学している」のは、中学3年生時点で明確な進路選択をすることが難しいからである。先のアンケートにもあるように、高校に求められているのは「基本的な学力、卒業後に次の進路に進むための学力を身につけることや、部活動や学校行事などを通じて友人や先輩との人間関係づくりを学ぶこと、失敗してもくじけず取り組み続ける力を身につけること」である。 「府立高校の中に大学進学実績が高い人気校を残したい、あるいはそういう学校をさらに先鋭化させたい(私立高校、市立高校に負けたくない)」という思惑のために、その他大勢の普通の生徒を不毛な競争に駆り立てた結果が今の府立高校の不人気なのではないだろうか。「新しい普通科」として挙げられている「学際領域」でエリートを育て、学力が振るわない生徒は「基礎・基本的な学び直し」を行う学校へ、という役割＝スクール・ミッションの固定化をしてしまえば、学校の格差はさらに「見える化」され、受験競争は激化するばかりである。いったん底辺に位置づけられた学校に、前向きな気持ちで学び直しをしようという生徒が、果たしてどれだけ集まってくるだろうか。そういった学校を魅力あるものにするには、進学校以上に手厚い人員配置や魅力的な施設設備が必要になると思われるが、そのような検討はしたのか。また「地域と連携・協働した学び」を行う学校とは言うものの、その学校の地元の生徒が通ってくる可能性はどれだけあるか。現状でさえ、ひとつの高校には非常に多くの中学校からの生徒が通ってきており、府立高校は地域の学校ではなくなっている。さらにスクール・ミッションによって異なる特色を持たせれば、「地域と連携」するはずの学校に地域外の生徒が多く通う事態になることは目に見えている。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
34	基本方針には、府立高校が職業学科を単独校化してきたことの矛盾が解消されない。懇話会での関連意見でも「中学生段階では将来の進路を描ききれない生徒が多く、職業学科を選択することは難しい側面がある」と述べられている。積極的に職業学科を選択する生徒も一部にはいるかもしれないが、「合格できそうだから」という理由で職業学科に進む生徒もいるだろう。学校・学科の配置見直しや魅力化推進という方向性ではなく、普通科と職業学科の併置や、共修ができるシステム構築の方が現実的ではないか。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
35	「新しい普通科」に関わる説明が少なく、理解ができない。教育関係者だけでなく、社会一般に理解されるようにしないと魅力は伝わらないと思う。 ① すべての「普通科」が新たに「学際領域学科」「地域社会学科」「その他普通科」に3分割されるのか、それとも、「普通科」を含め、4分割されるのか。「普通科」と「その他普通科」はどう違うのか。「普通科」の中から、いくつかが分離独立して内容が変更されるのかなど、基本事項が分からない。 ② 「普通科系専門学科の充実を図りながら、普通科や普通科系専門学科を見直して、新しい普通科を設置する」とあるが、記載されている説明によると、学際的・複合的な文理融合型が「学際領域学科」と考えられる。つまり、スーパーエリート校を作るように思えるが、それを全通学園に作ることは可能だと考えているのか。現在から更に学校間格差を拡大することには反対だ。	普通科及び普通科系専門学科を見直した後、どのような形で特色を持たせるのかという視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
36	一番多くの生徒が通う「普通科」をどう魅力化するのが書かれていない。書かれているのは「(4)全日制高校の配置等の在り方」という再編統合の仕方だけだ。再編統合以外の魅力化について言及していただきたい。 ①「懇話会」である委員は、「課題意識を明確に持っている子は専門学科をめざし、そこに行かない大多数は普通科に進学を希望する。そういう中で、(普通科の)特色がありすぎるのもどうかとも思う」と発言している。スクール・ポリシーで「魅力」をアピールしても、「大多数」の生徒には響かないのではないか。 ②それよりも、解説動画にもあったように、入学生アンケート結果の分析で、入試制度の改善方向や教育目標の大筋は見えてくる。大切なことは、学校に合わせる生徒を作るより、生徒に合った学校を作ることだと思う。 i) 教育内容に関して「学校に期待すること」は、「基礎的・基本的な学力を身につけること」「大学等の進学のための学力を身につけること」「学校行事が充実していること」となっている。それは具体的には、「在籍校の魅力と感じる点」で答えた、「学校行事(文化祭、体育祭、研修旅行等)」や「部活動」に参加し、日々の生活を充実させる中で、社会に出てからも生きるために必要な「友人や先輩との人間関係」作りを学ぶことであると答えている。そして、「学校生活を通じて身に付けたい力」として、「目標を立てて計画的に実行する力」、「多様な人と人間関係を構築する力」、「失敗してもくじけず取り組み続ける力」と答えている。健全な学校生活への目標と展望を抱えていることに感激している。各学校が持つ教育課程編成権に基づいて、生徒と一緒にその具体化を図ることこそが求められているのではないか。 ii) 「改善してほしい内容」としてあがっている「教室やトイレ等の施設設備の充実」「校則改善」「進学・就職に向けた指導」の充実についても、教育行政や府立高校の課題として、生徒とともに取り組むことが主体的に社会を生き抜いていく力を持つ生徒に育てることに繋がると思う。	普通科における魅力化につきましては、生徒の多様なニーズや希望に対応した選択肢が提供できるよう特色ある教育活動を提供する視点や、高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる視点、学科等の魅力や特色を子どもたちに発信する視点が重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
37	中学・高校の時期の子どもたちにとって、「将来目指すべきものは何か」「自分は何に向いているか」は、いつか答えを出さなければならないが、とても難しい問いである。高校3年で、進学の場合は学部・学科・コース、就職の場合は具体的な職種を選ばなければならないが、選びきれない生徒もいる。中学3年の段階では、様々な特色を持った高校を選択肢として示されても、選びきれない生徒の方が多いのであろう。中学の教員からは「高校を選ぶ選択肢が増えすぎ選択が難しくなっている。特に公立高校普通科・普通科系専門学科のそれぞれの違いを説明しにくい。入試制度が複雑すぎる。」という声を聞く。かつての類型制でⅡ類型数系を選択したのだが、入学後に向いていないことに気づく「隠れ文系」が一定数いたが、同様のことが今も、より大きな規模で起こっているのではないか。 少数派の様々なニーズに応えていくことも大切だが、選択肢を増やされても選びきれないのが多数派であるという現実を踏まえると、「通学しやすく、高校卒業後の多様な進路に対応した教育課程を持つ、全日制府立高校普通科に入学する権利」を府内のすべての中学3年生が持つことが、【包み込まれているという感覚】をすべての子どもたちが持ち、「すべての生徒が夢と希望を持ち、未来に向かって生き生きと学ぶ」ためには必要である。そしてその権利を最大限保障することを、府立高校の魅力としていただきたい。	府立高校の在り方ビジョンでお示ししている府立高校の果たすべき役割のもとに、府立高校の魅力化を推進してまいります。
38	「新しい普通科」のように府の主導で特色化が進められた学校は、施設設備、人材、予算等のテコ入れがあり、実績を上げていくことができるが、その他の普通科がバツグンアップのないまま学校独自の特色を考えつつも生徒集めに苦勞し、成果を上げられていない事実にも目を向けなければならない。「新しい普通科」の設置からもれた学校がさらに苦しい立場に追い込まれていくことは自明である。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
39	各学校が生徒に多様な経験をさせて、成長につなげていくために教育活動の充実を図っていくため、例えば海外研修などを実施しようとするれば、保護者の費用負担は不可欠である。費用負担なしに魅力化を進めるのは限度がある。府教委もこれまでの考え方を柔軟に見直し、学校の自由度を高めていく必要があるのではないかと思う。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
40	この間、公立(特に府立)高校は、定員割れが続いている。p12に、“府内公立高校進学者の減少傾向と、府内市立高校進学者の増加”(いずれも全日制課程)を指摘、その要因の一つに、「京都府あんしん修学支援制度」の浸透や拡充などにより、“経済的負担が軽減されたこと”をあげている。ただし、“負担軽減”で私立を選んだということは、公立側に“選ばれる魅力”、少なくとも“選ばれる条件”が不足しないし欠けているのである。空調やトイレなどの施設・設備面はわかりやすい指標である。 ここでは、少なくとも20年以上府の教育委員会が進めてきた、各校の特色化について意見を述べる。 かいつまんで述べると、現行の制度が複雑すぎて、中学生・保護者には分かりづらいのである。各校は“特色”を打ち出し、選んでもらおうと、教育課程に“工夫”を凝らした。私立は、当然各校で異なる教育課程を持ち、教育方針や、設備・留学・進学実績等を宣伝する。公立も、これと全く同じことをしており、とにかく他校と異なる教育課程、複雑な選抜(入試)制度に生徒たちは翻弄されている。高校に進学し、進路を決めていくのだから、ある程度、制度の中で考え、悩むことは必要である。一方で、現行の細かすぎる“特色化”は、教育委員会が各校に対して求めてきたものである。その結果、多くの中学生・保護者が混乱し、悩んでいるのであれば、速やかに改善を図るべきである。各学校も、“特色疲れ”を来している。スケールメリットを、公立の利点と捉えるならば、ゆるやかなグループを複数提示する方が、当然合理的で、かつ説得力が増すであろう。 多様な進路希望に対応した教育内容を用意するのは当然である。しかし、細分化された教育課程を提供し、そこから生徒に“選択”させるのは、形式的な対処に過ぎない。基本的な教育課程をしっかりと構築し、そして、就職・進学を生徒自らが熟慮の上で選択し、それを学校・教職員が導き、指導していく形にしなければならない。一見迂遠だがこの形の方が、より生徒自身を成長させ、将来を見透す力を獲得できるのである。 生徒は、自分の学びたい方向性にあった特色をもつ学校を、友人や家族とやり取りをしながら、公立・私立の各校から選び、決定していく。 更に、これに加えて、部活動の推薦や、私立一次、公立前期、私立1.5次、公立中期、私立二次、公立・私立の通信制、公立後期、私立二次など、入試の日程も複雑に絡む。前期の募集定員もまちまちで、受験可能地域も微妙に異なる。しかも高倍率で人気の高い高校では、受験した高校生は殆ど不合格となり、多くは私立の1.5次入試へ流れる。 入学後に、高校生活にうまく適応できない事例も多くみられる。ここで、“自分で選んだのだから”という、いわゆる“自己責任論”を持ち出しても、あまり意味はない。自分で“選ぶ”ことのできるのは、成績上位層・部活動の優秀層などのほんの一握りの生徒である。多くの生徒は、一見多様な選択肢の中から、自分の成績面と大まかな方向性(消極的選択もある)に折り合いを付けて自分を“納得”させ、志望校を決定する場合が多い。そこで、実際とのズレが生じるのである。 教育行政を進める側は、常に謙虚に府民(生徒・保護者・地域を支える人々)の声・要求に耳を傾けなければならない。私の意見は、進学教育・スポーツアスリート教育を否定するものではない。ただ、同時に、徒に序列化をもたらず制度改編、府立高校の在り方にも反対する。公教育(公立高校教育)の本来の在り方は、公正・公平なことに立脚している。 現在の教育行政を取り巻く情勢が、方向付けも、財政面でも厳しい局面にあることは理解している。その上で、教育行政に携わる方々には、現在と将来とを繋ぐ、府立高校の魅力ある基本計画の策定をお願いしたい。「教育基本法」にもあるように、“地域の実情に応じた教育に関する施策”すなわち教育に関する条件整備に徹していただき、「府立高校入学生のアナケート」(令和4年実施)に示されたように、“地域の高校に通って勉強や部活動がしたい”との声が少しでも早く実現されるように、府立高校の在り方を検討していただきたい。また、「第2期京都府教育振興プラン」や今年度の「学校教育の重点」にも明記されているように、生徒たちを“包み込み、誰一人取り残すことのない”ように、均衡が取れ、かつ目配りの利いた全体計画となるように、切にお願いしたい。以下に、私の提案の概略を記す。 ①標準的な教育課程(カリキュラム)を設け、特色化は漸減していく。 ②ゆるやかな、後戻りのできる教育課程(カリキュラム)を設ける。 ③35人学級の速やかな実現と、都市部での大規模校容認識論の封印。 ※“切磋琢磨”とは、本来徳(人格)と学問(学びの本質)を高め、また互いに励まし合うとの意味であり、“多人数”の競争とは、無関係である。 ④高校間の単位互換やオンライン授業を設け、授業・事務担当者には付加手当を支払う。 ⑤北部の通学には、交通手段や通学補助(支援金)導入を早急に検討する。 ⑥職業教育(含、キャリア教育)の充実を図り、地元や経済界・産業界とも充分交流する。 ⑦しんどい学校こそ、人員と予算を重点的に配当する。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
41	「…基礎・基本的な学び直しなどの多彩な選択肢を提供する」とあるが、勉強が苦手な生徒が集まる高校ができると学校が荒れたり指導が大変になるという予想もできる。このことと、3 柔軟な教育システムによる魅力化、との関連性についてはどのように考えているのか。	全日制普通科における魅力化につきましては、生徒の多様なニーズや希望に対応した選択肢が提供できるよう特色ある教育活動を展開することが必要であり、基礎・基本の学び直しに対するニーズも特色ある教育活動の一つと考えております。 一方で、柔軟な教育システムによる新しいスタイルの全日制高校につきましては、卒業までに修得する科目や単位数を選択可能とし、基礎・基本の学び直しも含め、様々な学習ニーズや目的に応じて学習スタイルを変更できることを想定しています。 御意見を踏まえ、魅力ある府立高校づくりを進めてまいります。

御意見の要旨		府の考え方
42	職業学科については、時代に適応した魅力ある学びが得られる状況は、現在も整っていると感じるが、普通科については、進学した高校による格差が大きいように思う。地元の公立高校普通科で、十分な学びが得られるようポリシーを掲げていただき、教職員の方も情熱を持って、ご指導いただけるものになることを望む。いわゆる現状でのハイレベル公立高校に行かなくても、地元の公立高校で、求める生徒には、求めに応じたハイレベルな学びが提供されるという意味である。"ハイレベル公立高校にも私学にも行けない者が行く高校"になってしまっている感じが、世間的にも生徒にもあると思うので、それが無くなって、胸を張って、母校を誇れるようになって欲しい。小学区制が無くなり、高校授業料無償化になり、選択肢が広がったと思うが、逆に「勝ち組」「負け組」が15才の身に浸み付いてしまうのが、親として辛いので、学校毎の特色を打ち出すことは良いことと思うが、それが「勉強のできる子が行く高校」「できない子が良く高校」となってしまうものになることを望む。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
43	多様な生徒を受け入れてもらえるところが公立高校の良さであると思う。特色化に反対ではないが、中学校卒業段階で将来の進路やしたいことが定まる子は多くない。将来のことが定まらない生徒が、様々なことを広く学べる普通科の存在は大切である。学年が上がり、自分の進路希望が絞れて来た時に、それに応じた学習ができるような普通科の学校も大切にしてほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の特色化及び魅力化を進めてまいります。
44	多様な生徒を受け入れてもらえるところが公立高校の良さであると思う。特色化に反対ではないが、中学校卒業段階で将来の進路やしたいことが定まる子は多くない。将来のことが定まらない生徒が、様々なことを広く学べる普通科の存在は大切である。学年が上がり、自分の進路希望が絞れて来た時に、それに応じた学習ができるような普通科の学校も大切にほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の特色化及び魅力化を進めてまいります。

御意見の要旨		府の考え方
第2章 今後の府立高校の在り方 1 全日制課程の魅力化と配置等の在り方 (2) 職業学科及び総合学科		
45	農林関係のみでなく、京都ならではの伝統産業、焼物、着物、結髪、和建築の大工等の技術を身に付けるための知識や、興味を持つためのコースを数力所の高校に設置していただきたい。	職業学科については、地域バランスや地域の魅力を考慮した配置とする視点から、基本方針をお示ししております。御意見を踏まえ、職業学科設置校の魅力化を進めてまいります。
46	基本方針には、地域社会との連携をより活性化し、(府北部)地域への展望や夢、郷土愛を育み、地域社会の発展に貢献できる意識醸成につながる教育活動ができる学科を充実させる、といった内容を盛り込むべき。	府立高校の在り方ビジョンでお示ししている「地域とともに府立高校づくり」のもとに、職業学科・総合学科設置校の魅力化を進めてまいります。
47	府立高校ネットワーク事業をキャリア教育の観点から再編し、「デジタルネットワーク京都」校(仮称)を設置してはどうか。デジタル人材の育成は急務である。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
48	基本方針に、「府産業教育審議会における議論のもと、産業教育の一層の魅力化を推進する」中、「一層の魅力化」とあるが、「魅力」とは何を指しているのかその規程(根拠規定)を教えてください。 また、「府産業教育審議会における議論」については、都道府県の首長が積極的に関与すべきと考えるがどうか。	府産業教育審議会は、産業教育振興法第3条にある産業教育の振興を図るために必要な内容を審議するために設置するものです。委員には府知事部局職員をはじめ、関係機関、民間企業も委嘱しており、今後も幅広い議論のもと、しっかりと連携し産業教育の充実に努めてまいります。
49	基本方針では、地域の産業を担う人材の育成を本当に図ろうとしているのかどうか問われる。職業教育への展望が見えるような方針の提示をお願いしたい。 「懇話会での関連意見」にあるように、「中学生段階では将来の進路を描ききれない生徒が多く、職業学科を選択することは難しい」という実情があると思う。しかし、その対策として、【基本方針】で「産業教育の一層の魅力化」「実社会で通じる実践的な産業教育」よりも「学科の再構成や募集定員の設定の在り方等」を検討し、地域バランスや地域の魅力を考慮した学校、学科の配置とする」ことがまず掲げられると、工業科や商業科での学科再編や募集定員の検討、そして、各通学圏にある農業科の統廃合の方向で行くという意味に受け止れるが、それでよいのか。	これからの職業教育を展望し、教育内容の充実や施設設備の整備を推進する視点等から基本方針をお示ししております。 なお、個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
50	現状では、職業学科を修了した後の職業で安定して高収入を得ることは難しい。そのデメリットの克服のためには、高度な技術や斬新なアイデアを提供できる力が必要になってくるが、そういう専門性、コミュニケーション力を身につけていくためには、明らかに高度な知識・学力をつけさせることが必要であるのに、現状の職業科では難しい。その原因のひとつとして、格差社会の現在及び近い将来を直視したときに、自らのキャリアを真剣に考え、社会を牽引していける人間性の素地を持った中高生は一部を除いて、農業・水産・ものづくりの道を選ばない。結果、高い意欲を持って志望するのではなく、「机に向かっての勉強よりは体を動かす方が向いている」くらいの選び方で入学する生徒も多いように思える。そうした現実をどう解決していけばいいのか、農業や水産・ものづくりなどに魅力を感じ、意欲と希望を持って入学を望む学力を持った生徒を集めるためにはどうしたらよいのかに目を向けていけない限り北部・周辺地域の発展は望みがたく、また、「新しい普通科」も目新しさだけで先細りしていくことが考えられる。もっと京都府の未来をどうするのかという点を含め、行政とともに考え、確実に「起業できる」カリキュラムや成功者などの講師陣を備えた魅力ある高校・大学を「新しく」作るくらいの勢いでない限り、京都すばるや南丹、須知止まりになってしまうことが予測できる。結局、知力・人間力を育成していける元々の素地を持った生徒を集めるためには、もはや小学生の段階で、世の中を支える農・水産の新しい在り方について考えさせ、憧れを持たせる必要があったのではないか。	魅力ある府立高校づくりにおいては、学科等の魅力や特色を子どもたちに発信する視点は重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
51	・中丹地域にあっては、普通と職業学科の再編するに当たっては普通科の規模と職業学科との規模が異なる。普通科は管内に点在するが、職業学科は少数である。 ・人間同士の交流による人間教育は、学校に一定の規模がなければ育成が難しくなってくる。そのために普通科の再編はその意味からも広域通学による再編は可能であるが、職業学科との再編は相手校がないため、結果的にはクラスを一律に減少する方法しか選択肢がなく、そういった意味からその教育に支障が生じる恐れがある。 ・また、長田野工業団地にとっては、特に工業高校からの人材確保を求めるニーズは極めて高く、工業高校の再編＝クラス減は人材確保がこの地域では充足できない可能性があるという負のイメージとなると考えている(人材が採れないのであれば、人材の採れる南部に将来的に移転も検討することに繋がりがかねない) ・従って、普通高校と工業高校のクラス編成や再編を一律に考えるのではなく、工業高校は全国比率でも低い比率であること(【全国】全生徒数:工業系生徒数=92.8:7.2、【京都府(京都市を含む)】:全生徒数:工業系生徒数=95.4:4.6)も考慮しながら、魅力ある工業高校をアピールするなどの工夫を図り、工業高校の定数の削減を緩やかにするなど、工夫を図られるよう検討をお願いしたい。	職業学科については、地域バランスや地域の魅力を考慮した配置とする視点から、基本方針をお示ししております。御意見を踏まえ、職業学科設置校の魅力化を進めてまいります。
52	学生の地元志向がより強くなっている中、工業系(京都府立工業高校)クラスの縮小は長田野工業団地企業全てに関わる大変大きな問題である。卒業後の就職先はたくさんあるだけに、何とか維持してもらいたい。	職業学科については、地域バランスや地域の魅力を考慮した配置とする視点から、基本方針をお示ししております。御意見を踏まえ、職業学科設置校の魅力化を進めてまいります。

御意見の要旨		府の考え方
53	地域に根付いた活気ある企業・工場を目指す上で、職業学科で専門分野を集中的に履修した人材を確保することは必須と考えており、製造業の下支えに繋がっている。 地方で工場を継続的に運営する上では、人材確保の要素は大きく、特に後々に中核となる人材を確保できなくなることは、結果的に工場移転の選択にもなりかねず、その地域にとっても痛手であり、地方衰退に更なる拍車がかかるのではないかとと思われる。 国も物づくりの重要性から、小学・中学・高等学校で物づくり教育を充実させている。 今後の地方の地力を維持するためにも、高校生の中から物づくりを意識し、就学地域に根づく人材を確保できるよう、職業学科高校を縮小することなく、再編プランの策定をお願いしたい。	職業学科及び総合学科については、地域バランスや地域の魅力を考慮した配置とする視点から、基本方針をお示ししております。御意見を踏まえ、職業学科・総合学科設置校の魅力化を進めてまいります。
54	毎年度の京都府立工業高校の就職希望率は約65%である。過去2015年前後は、就職率40%の時もあったが、ここ数年は65%（約110名）で推移しているようだ。その中で長田野工業団地への就職者は20～30名程度、他には福知山市内、綾部や京都大阪地域への就職先がある。 人口減少に伴う府立高校の再編・縮小については、特に工業科の再編は将来中丹地域を担う若者の流出に繋がりが兼ねない。 近年では、高校進学時に将来設計を立て高校進学を考えている事から工業科の定員数の増員、普通科においても工業関係の基礎科目の設定により就職への変更も可能となるカリキュラム、授業の専門性の拡大、地元企業との交流や企業見学の拡大等も必要ではないか。	職業学科については、地域バランスや地域の魅力を考慮した配置とする視点から、基本方針をお示ししております。御意見を踏まえ、職業学科設置校の魅力化を進めてまいります。
55	職業学科に入学することへのメリットが学生側から見えにくいため、地元中学に教育委員会からその魅力について説明してもらいたい。現状の普通科進学が多いのは、大学への進学を希望する人口が多いからだ。職業学科に入学することで大学進学に匹敵する利点を作ることが必要だと考える。近年技術の発展から職業学科も発展していかなければならないはずだが、その点はどうか。学校内の従来通りのカリキュラムに沿って教育を行うだけでなく、世界情勢や発展に伴った教育カリキュラムにその都度変更できるのが理想と考える。	魅力ある府立高校づくりにおいては、学科等の魅力や特色を子どもたちに発信する視点は重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
56	京都府立田辺高等学校は、普通科と工業に関する専門学科が併設された学校である。 現在の教育課程の中にも普通科に、技術一般という技術（工業）の知識や技術、機械の操作などを学習する科目を置いている。しかし、教育システムの魅力化という観点でいえば、田辺高校でしかできない工業に関する専門学科と普通科の融合した取組を検討していけば、田辺高校独自のカリキュラムができないかと思う。具体的なものはないが、せっかく常設されている機材（旋盤やフライス盤、ボール盤、溶接機、電動機、発電機）などがあるのに、それらの設備を普通科にも学ぶ場を設けられたらと思う。ものづくりの楽しさを体験できる授業が実現すれば自分の視野が広がるのが期待できる。	御意見を踏まえ、職業学科設置校の魅力化を進めてまいります。
57	AIができない仕事で将来食べていけるように、『無施肥』などの京都発農林水産業や、伝統工芸を広く・毎週・在学中に学べ、博物館などへも頻繁に授業で行けるようにしていただきたい。これにより、職人になるほか、伝統産業品を購入する理解者になったり、世界へ訴求でき、差別化もできる。 日本最高峰の京都の伝統工芸を、実際に体験して学び、国際コンペや留学、起業に役立てられた経験がある。ダボス会議等の情報をみると、地軸の反転や天災・戦争等で、電気や物流が半年止まる等のリスクがあるため、日本人は、無職になったり大規模災害で支援が数か月来ないことがあったりしても、自分で食べて行ける能力が必須である。京都には「農林水産系学校」も「伝統工芸の継続学習」も「革新的な意識」も全て揃った、日本でも稀有な古都である。日本の為に、世界へ訴求する人材の開発が使命と考える。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
58	京都府内で農林水産系等の高校を、単位交換で学べるフリーアドレスやホスト受入措置の導入を希望する。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
59	職業学科（特に工業や福祉）に対する府教育委員会と学校の思いが見えてこない。ここ何年も定員割れが続いているにもかかわらず、言い訳をするばかりで、このことに危機感を持って対応している姿が見られない。より時代に合った職業教育を進めていくための指針をきちんと出すべきだ。	これからの職業教育を展望し、教育内容の充実や施設設備の整備を推進する視点等から基本方針をお示ししております。 なお、個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。

御意見の要旨		府の考え方
第2章 今後の府立高校の在り方 1 全日制課程の魅力化と配置等の在り方 (3) 京都府立大学との連携強化		
60	京都府立大学附属高校化の構想には不安を覚える。地域性もあり、単純な形では考えていただきたくない。	京都府立大学との連携強化による教育内容の魅力化という視点を踏まえ、基本方針を検討してまいります。
61	府立大学附属高校化については、府立大学の塚本学長が京都新聞の取材で「農林業系専門学科の後に普通科高校も付属化することも視野に入れている」と回答されていたが、農林業分野のみとし、府立農業大学校や府立林業大学校からの編入も含めて検討された方が京都府農林業の振興に繋がると感じる。	京都府立大学との連携強化による教育内容の魅力化という視点を踏まえ、基本方針を検討してまいります。
62	京都府立大学附属高校については、現在連携している2校やSSH校が有力候補になると思うが、附属校にならない高校について不安を感じる。京都府全体を見つめた視点で進めてもらいたいと思う。	京都府立大学との連携強化による教育内容の魅力化という視点を踏まえ、基本方針を検討してまいります。
63	本計画については、先日、新聞紙面にも塚本学長のコメントが掲載されていたが、「新生・京都府立大学」改革プランに基づく大学改革に合わせる形で、ぜひ成功させていただきたい。公立大学が農業高校(学科)を附属化することは、全国に例のない新しい教育のカタチを示すことになり、全国から注目される改革になることと思う。新聞紙面において、塚本学長も「農学、林学ともに習得に時間がかかること」、農林業系の学科で学ぶ高校生の特徴として、「実際に体を動かして土を触ってきた強み」と表現されていたが、農林業系の知識・技術の定着には、時間とそれ相応の経験値が必要となる。それを可能とするために、高大が密に連携する中でお互いの強みを活かしながら進めることができる新たな教育の仕組みづくりをお願いしたい。 その他、計画を実行されるにあたって府民として心配することがある。 今後、通学エリアごとの適正配置等の議論も具体化するものと思うが、附属化の件については、適正配置の議論と同じ土俵で考えることなく、最優先事項として、成功(成功とは何かということが重要だが、例えば、新たな教育の価値を府大附属として京都府から発信する…)するための条件を整えていただきたい。他県でよく見られるのが、県民のニーズを基に改革されるが、学科名の変更とカリキュラムの小変更で何も変わっていない。また、入学人数の減少や距離等の関係で安易に統廃合となるが改革のメリットが活かされないが、その後、閉校にもできない状況の学校があるので心配である。京都府の学舎制も急激な生徒数減少には不安要素が多く、府民は心配している。結局、あまり変わらないのではないかなと思う。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。京都府立大学との連携強化による教育内容の魅力化という視点を踏まえ、基本方針を検討してまいります。
64	「附属高校」とあるが、この位置づけが分かりづらい。北桑田高校と農芸高校を京都府立大学附属高校とするという理解を行った場合、教員を配置するのは京都府なのか、京都府立大学なのか。これによって扱いが大きく異なると思われる。また、北桑田高校と農芸高校の現在の学びの内容と、京都府立大学の学びの内容は相互につながっているといえるのか。林業大学校や農業大学校の方が相互につながりやすいものになるのではないかな。あまりにも内容がはっきりしていないため、具体的にどのような学びの点で「附属高校」化や「附属高校」の設置が望ましいのか、もっとはっきりと示すべきであると感じる。	附属高校とする目的や附属高校の管理、運営に関する視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
65	府内の私立高校のほとんどが普通科であるにも関わらず、私学志向が続いている。この傾向は学科や教育課程によるものではなく、他の要因、例えば系列大学への進学、施設設備の充実、修学支援制度、複数回の高校入学者選抜等があるはずである。私立高校とは異なる条件のもとで府立高校が入学生を確保するには、少子高齢化、人口減少に対応しようとする京都府の施策とできる限り歩調を合わせて実施することが効果的と考える。具体的には、府立大学附属高校化のような構想がすばらしいと思う。懇談会での関連意見にもあるが、令和5年3月の京都府総合計画との関連を明らかにしていただきたい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。 産業教育の一層の充実及び魅力化の推進のため、府の産業政策の視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。 なお、京都府総合計画には、分野別基本施策において、魅力ある府立高校づくりの推進、学校、学科の配置や入学者選抜制度の見直し等の教育制度改革の推進、学校間連携の強化等について盛り込んでおります。
66	農業教育の展望を示すものとして掲げられたものかと思うが、「現在、農林業系専門分野において京都府立大学と連携協定を結び、…高大連携プログラムを北桑田高校と農芸高校の2校で行っている」と具体名が唐突に出てきたことに違和感を覚える。京都新聞10/19付けで決定事項のように補強記事？が出たが、議論の進め方としてどうなのかと思う。	現在京都府立大学と高大連携プログラムにより連携している学校をお示しております。京都府立大学との連携強化による教育内容の魅力化という視点を踏まえ、基本方針を検討してまいります。
67	府立大附属高校の設置について、手始めに農林業系専門分野から手を付けるのは良いと思うが、将来的には文学、公共政策分野についても連携できる附属高校にしてほしい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。 個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
68	数年前に新聞に載っていた農芸高校365日というダイジェスト記事を目にした。畜産を教えている教員の情熱が伝わり生徒も充実した3年間を過ごしている素晴らしい高校だと感じた。このような教員が中心となって附属化を進めれば、良い府立大附属高校になると思う。府立大学には畜産学部がないことが惜しまれるが、バイタリティ溢れる教員が未来を切り開いてくれると考えれば、魅力ある府立校づくりは明るいと思う。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。京都府立大学との連携強化による教育内容の魅力化という視点を踏まえ、基本方針を検討してまいります。

御意見の要旨	府の考え方
69 先日、新聞に掲載された「農林系高 府立大附属化」に大変期待している。塚本学長がおっしゃっている「高校と大学の境目がなく、高大を通じて学ぶ」スタイルは、新しい学びの形で、どのような生徒や学生が育つか、大変興味深い。現存する農業高校や農業系学科の学科名やカリキュラムを変更するだけでの附属化となれば、看板が変わっただけとなり、一時の定員割れを防ぐことはできるが、先がないことが簡単に予想できる。府立大学附属高校となり、新しい学びの形を確立するには、高校側の校長を始めとする教職員の意識、ハード面ソフト面など、大きな変容が必然だと感じる。農業教育の価値を大学とともに変えていくためにも、通常の高校の枠を超え、クラスや担任に捉われないなど、大学方式の学びを取り入れ、他校とは別格の楽しさで、自由で実践的に学べる高校であれば考える。農業教育の価値が変わることにより、府民や中学生からの評価が大きく変わり、それが将来的に教育改革の第一歩となり、京都府の産業の発展につながっていくことを期待する。 また、丹丹地域には農業科を持つ高校が4校あるが、附属化と統廃合または学舎制は、切り離して行うことが望ましいと考える。附属化する学校に学舎制を導入すると、統廃合等の一環で実施されたものと思われ、新しい教育のスタイルの確立が薄れてしまう。附属化は別格であると思われることが、改革には大切です。府立大学が農業系の高校を附属化することは日本初であるため、注目を集めることと思う。 そのため、新しい高校の学びのスタイルを是非とも成功に導いていただき、京都府の安定を図っていただきたい。新しい世界を切り拓くことは大変と思うが、よろしく願いたい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。京都府立大学との連携強化による教育内容の魅力化という視点を踏まえ、基本方針を検討してまいります。
70 将来の農林業を支える若い人たちに夢とロマンを与える公教育(高校)として農林系高の府立大附属高校化をされることに賛同する。(スピード感をもって実施してほしい) 特に山林の荒廃は災害等にもつながり、山からの水は農業等にも影響を与える。担い手を育成するためにも重要な施策であり、学問の都の京都から推進されることは重要なことである。附属高校化することにより多くの生徒が集まることを期待する。(森林フォレスト科に広範囲から生徒が入学できるように学生寮の整備をお願いしたい。)	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、職業学科設置校においては、特色ある寮や産業教育設備などの整備推進の観点から、基本方針をお示ししております。
71 職業専門学科では魅力的で素晴らしい学びを行っているのに、中学生や保護者に認知されていない。今後、農林水産業の充実無くては安定した国家が成り立たないのではないかと。若者の農林水産業への興味関心や人材育成は不可欠だが、その中で京都府立大学との連携は画期的であり、全国的にも職業専門学科との連携は初めてではないか。そして府や国との連携へ発展していく必要もある。府内や全国から注目を浴びて希望者が増えることを望む。そして、研究と即戦力の両方の人材育成ができることを期待する。 北桑田高校は施設設備だけでなく、全国的にも特色ある取組が多く全国から希望者がいる。しかし、寮が古く収容人数が少なく、希望しても多くの中学生が寮に入れず通えないことから多くの中学生が諦めている。そのため附属高校となるならば、益々希望者が増えると予測される中で、新たな寮整備も同時に行わなければ意味がないのではないかと。中間案にもあるが、附属高校のタイミングで、是非寮整備も併せて考えていただきたい。 また、北桑田高校には伝統ある普通科もあり、多くの人材を輩出している。京都府や全国が抱える少子高齢化と中山間地域の持続可能に向けてモデル校となるよう、長年様々な取組や地域との連携を行っている。京都府立大学公共政策学部等他学部とも連携し、府内の地域貢献や地域の課題と向き合う高校のハブ的・中心的な役割も期待ができと思う。	魅力ある府立高校づくりににおいては、学校・学科等の魅力や特色を子どもたちに発信する視点や、産業教育の一層の充実及び魅力化の推進のため府の産業政策を踏まえる視点、快適な教育環境確保や魅力化には学校施設・設備の整備が重要であるという視点などを踏まえて、基本方針を検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
第2章 今後の府立高校の在り方 1 全日制課程の魅力化と配置等の在り方 (4) 全日制高校の配置等の在り方		
72	子どもには、社会に出るまでに大人数の中で集団生活を送ることを経験してほしい。その中で自分とは違う価値観を認め、思いやりの心を持ち、良い人間関係を築く事ができるようになってもらいたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
73	いろいろな友達を作れたり、クラス替えによって苦手な子とも別のクラスになることができたりするため、同級生が多い方がいい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
74	高校教育の質を確保するには基本計画に示されているように6～8学級の規模は必要であるとする。さらなる少子化が見込まれる状況の中で統廃合はやむを得ない。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
75	南部地域においては1学年6学級から8学級を支持する。 理由として、地理歴史科、公民科、理科、保健体育科、芸術科の小科目の専門性を維持するため、また、家庭科等の教科の専門性を維持するためには、最低6学級が必要と考える。 また、人間関係を構築しにくい生徒が増加傾向にある中、各学校が設定するクラス及びコースが複数開講できることが望ましい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
76	こどもが南部地域の小・中学校に通っている。中間案にあるように、小学校から6学級の人数の中で学んでおり、友だち関係も広がり、勉強、運動、それぞれの得意なことや個性が違うので、友だちでなくても刺激を受け合って成長しているように感じる。 参観した運動会や発表では、大人数で取り組んでいる様子に感動することも多い。クラスや学年全員で一つのことをやるので準備は大変なようだが、やり遂げた時の達成感や満足感をとても感じているようだ。勉強のほかにもクラブ活動も選択肢が多いので、運動が苦手でも芸術系のものがあったり、好きなものを選んで参加でき、そこで新しい友だち関係も広げることができている。 小学校の時から大人数の中で過ごしているため、高校でもある程度大人数の中で、大学や社会に向けて充実した高校生活を送ってくれることが子どもの成長には重要だと思う。子育てをしている中で、家庭でも頑張る必要があるが、子どもが社会に巣立っていくには小学校から高校までの環境が大切だと思う。中間案にあるような魅力的な高校にしてほしい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
77	学校の活動を活力あるものとして維持するために、一定規模の生徒数を確保することが必要、ということは理解する。 生徒数減少に伴い学校数を減少させても、教員の数を減らすことにつながっては意味がない。多様なカリキュラムを集約する学校を設置するためには、より手厚い教員配置が肝要である。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
78	部活動、特別講座のような形で、地域の成人も含めたスポーツ芸術団体と連携し、生徒の活動を活性化していくような開かれた学校であることが、口丹以北等の小規模化していく地域で特に重要と考える。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
79	精華・木津川地域は、中程度以上の学力を持った子どもが1時間未満で通学可能な選択肢が限られているほか、京都市内より奈良市がとて近い地域である。奈良市への越境受検を可能にするか、山城地域の学校に充実した中程度以上の学力の子が行きたくなるコースを設置していただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
80	現在の中間案に賛成する。その上で、具現化する際に、以下のようになっていけばいい。 普通科・普通科系専門学科の特色をもって魅力化を進め、またそのことの周知に努めることは大切なことだと思う。ただ、特色化がその高校の教育活動の全てとならないよう、発信する側も受け取る側も留意する必要がある。普通科・普通科系専門学科ともに、普通化を基盤にする限り、バランスと多様性をもった土台の上に特色を図ってほしい。それぞれの学校が、自校の特色に合う生徒の範囲を極端に狭めてしまうと、中学生から見たときに高校の選択の範囲が狭まってしまわないかと心配するからである。 また、普通科系専門学科において、「探究活動等を通して、高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる」という特色が記されているが、普通科においても、同様の特色を実現することは可能だと考える。そのような意味からも、個々の学校の描く特色の円(範疇)が、様々な学校で重なり合いながら、府立高校全体が厚みを持って、多様な生徒の学ぶ場として進んでいけば魅力的だと思う。 そのようなことを考えたとき、ある程度の学校規模(生徒数・教職員数)を維持していくことは必要になってくる。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の特色化及び魅力化を進めてまいります。
81	南部地域と北部地域では地理的条件や公共交通機関の運行状況も大きく異なる環境がある。自宅から通える学校(通学時間)を考慮した配置等が必要である。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
82	南部地域と北部地域では地理的条件や通学に要する時間等環境が大きく異なる。自宅から通える学校(通学時間)を考慮した配置が重要だと思う。一方で、各校の役割分担という視点では、斬新であった類・類型制度の時期もできあがってみるとすべての学校が同じ形であったため分かりにくかったことから、一目瞭然といった変化も必要だと感じている。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
83	南部と北部では高校を取り巻く環境が大きく異なる。特に丹後地域では公共交通機関が不十分で、部活動をやりたくてもできない現状もある。また、毎日の送迎など保護者の負担も大きく、生徒が自宅から自分で通える学校(通学時間)を考慮した配置をお願いしたい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。

御意見の要旨		府の考え方
84	高校の広報活動は、合同説明会や各中学校へ行っての説明会、夏の体験セミナーや秋のオープンスクールと中学校関係者にはアピールしているが、さらに一般市民等に対してもホームページの充実や新聞折り込み等で広報をしていく必要がある。（予算が必要）	魅力ある府立高校づくりににおいては、学科等の魅力や特色を子どもたちに発信する視点は重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
85	口丹通学圏の府立学校は、普通科、専門学科とも各校が特色ある教育活動を行っている。10年前と同様に中学校からは「私学は広報がうまい…」と言われることも多いが、その特色を広報するため、限られた人員が尽力している。 年度当初より、口丹地域の府立学校が一丸となって広報活動に取り組んでいる。広報の対象を「中学校3年生と保護者」「中学校1・2年生と保護者（小学生を含む）」「中学校教員」として、令和4年度から南丹教育局を中心として中学校長会と連携しながら説明会を実施している。 この他にも、府立高校において高校生が小中学校でボランティア活動を行うなど、府立学校の特色や高校生の姿を伝える機会が大幅に増加している。 しかし、中学生の希望状況は好転しておらず、私学志望者が増加している。	魅力ある府立高校づくりににおいては、学科等の魅力や特色を子どもたちに発信する視点は重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
86	基本計画は、あまり魅力を感じるプランではない。 今年度、多くの学校説明会に参加したが、総じて、私立高校は魅力の発信が非常に上手である。その高校で「何ができるのか」と「その結果どんなことができてどんな人物になれるのか」という具体的なビジョンをプレゼンテーションしてくれ、この高校を卒業したらこんな風になれるという希望をくれる。 残念ながら、多くの公立高校では、「社会に通用する」「社会で活躍できる」「難関大学を目指せる」と言ったもやとした形で将来像に終わっていたように感じる。ただ、ある府立高校の校長だけが、「AIに騙されない人物」「今の自分でできることではなく、自分が目指したいものがどうしたら実現できるか考え目指せる人物」といった目指してほしい具体的な人物像を語ってくれ、我が子がとてもいい顔をして聞いていた。 「魅力」というのはこういうことなのではないか。 「このような人物になるためにこの学校に来てほしい」、「これを目指して来てほしい」、「この学校はそうなるためのカリキュラムを用意して待っている」といった、具体的に強いメッセージを発信して行くことが魅力の強化に繋がるのではないかと思う。	魅力ある府立高校づくりににおいては、学科等の魅力や特色を子どもたちに発信する視点は重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
87	府立高校規模の適正化を目指した配置再考は致し方ないが、再編に当たった府立高校については特に、「より魅力的なものに生まれ変わる」ことを早期にアピールできるような再編であってほしい。「人気がないから再編された」となると、府立全体の魅力化が図れない。ぜひ、再編の対象校には予算もかけていただきたいし、地域の希望の星となるような、大胆な教育が行われる学校となることを支えていただきたい。 また、「普通科の特色化」が必要なことはよくわかるが、予算も自由度もない中での特色化は、教職員の時間と力を過剰に奪いかねない。必要ではあるが最も困難な課題が「普通科の特色化」であるというのが現場の認識である。予算（人員配置含む）または自由度（規制緩和）を十分に持たせた特色化推進をお願いしたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
88	府全体として、中学生が減少するものの、学校教育を維持、発展させるためには、一定規模の生徒数が必要となる。南部地域において、6～8学級という学校規模は、学校行事や部活動を含め、必要と感じている。一方、北部地域においては、地理的な状況もあり、生徒の通学の負担を考えると、一つの学校が複数の機能を担うことも想定すべきと考える。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
89	・舞鶴市にある2校を小規模で残すのは避けるべきである。 ・福知山市と舞鶴市の規模を考えたとき、私学や高専も含めて福知山市に6校、舞鶴市に4校という学校数のバランスがこれ以上崩れないようにしてほしい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
90	各府立高校では、地域と連携した特色ある取組が推進されていると思う。各校の魅了ある取組として中学生や地域の皆さんへ、府教育委員会と各府立高校が連携した積極的な情報発信をすることが、府立高校への志願者確保に繋がるのではないか。SNSをフルに活用した新たな発信方法をご検討いただきたい。	魅力ある府立高校づくりににおいては、学科等の魅力や特色を子どもたちに発信する視点は重要であり、そうした視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
91	私は高校3年生で希望の高校に合格し、通学している。友人は別の学舎になり、同じ部活動が続けることはできなかった。今の高校の仕組みはもう変えられないが、今後同じ高校の中で、片方の学舎に部活動があるなら、ない学舎でも部活動が続けられるようにしてほしい。	部活動や学校行事等の教育活動のバランスの良さは、府立高校の強みのひとつである視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
92	丹後地域の中学校では、少子化のために団体競技の部活ができなかったり、学校によって部活が決まっていたりする中で、高校では中学校まででない部活動があったり、大人数で活動できたりするのは、子供にとって魅力になっている。丹後ではその高校でも団体競技の部活が厳しかった中で学舎制により活性化している部活動がある。学舎をつなぐバスは今後も継続してもらうとともに、今は週2回だが、増便も検討していただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
93	基本方針で、南部地域（京都市・乙訓地域、山城地域）について、「1学年6学級から8学級程度（学校全体で18学級から24学級）を望ましい学校規模」とするとあるが、学級規模については触れられていない。多様な生徒に対応するために、府立高校を30人学級として、よりきめ細かな指導ができるようにするべきではないか。京都府私立中学高等学校連合会の資料では、学校により学級規模には差があるが、府下の私立学校全体を平均するとほぼ35人になっている。また、「主体的・対話的で深い学び」を行うためにはその環境整備が必要である。 高校生にとって近くて通いやすい公立高校があることは魅力であり、少なくとも今の府立高校の数を維持するべきである。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。

御意見の要旨		府の考え方
94	現在、府立高校を希望する生徒が減り、京都市立や私立をめざす生徒が増えていることへの分析を深めることが不可欠だと思う。分析の基本は京都の高校教育の歴史的な変遷を紐解くことであると思う。同時に、9月に文科省から出された登校拒否、不登校生徒が京都の高校においても大きく増加していることも大変気になる。いじめ、暴力の増加も大変心配である。更に6月定例教育委員会議において民間の教育委員3人から、高校での少人数教育の実施、「教育移住」が広がっていること、過疎対策も含め安易な統廃合反対との発言があったことを生かすことも重要である。 国民の声により小学校における35人学級が進んでいるが、ペースが遅く、全体として子どもにとっても教職員にとっても学校への苦痛が増していると思う。多感な思いが更に広がる発達特徴である高校生についても少人数学級を実施することこそが、教職員との密な関係づくりや価値ある「自主的対話的、深い学び」につながることは明確であると思う。不明確な「切磋琢磨論」ではなく、住民の力によって学校をつくった京都らしい伝統を再び発揮し、全国に先駆けての高校30人学級への展望をぜひつくり出してもらいたい。京都市内、南部、乙訓、口丹での高校統廃合による安上がり教育の流れには強く反対する。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
95	「一定規模の生徒集団による教育環境を整備することが重要」としながらも「小規模校や小集団による学びの形態が望ましい場合もある」と書かれているが、少人数学級に全く触れられていないことに疑問を感じる。コロナ禍での分散登校などで、少人数学級・少人数講座の良さが広く認識された。切磋琢磨は少人数の中でも十分可能である。また教職員の多忙化は長年の課題でありながら、「働き方改革」をそれぞれの努力に任せた結果、いまや教職員のなり手不足・講師不足は深刻である。少子化が進むも、小中学校で進められてきた35人学級、さらには30人学級を実現したり、教職員の持ち時間数を減らしたり、小規模校でも授業科目の選択を保障したりすることこそが、まずは大切なのではないかな。 南部地域では1学年6学級から8学級を適正規模としているが、そのことに疑問を感じる。現場で教えている実感としては、6学級以下程度であれば学年すべての生徒の顔がだいたいわかり、それぞれの様子をつかめ、指導がしやすい。規模が大きくなるにつれて一人一人の生徒をつかむことは難しくなる。丁寧な学習指導・生活指導を行うためには、提案されている規模は大きすぎる。少子化に伴って、小規模校や少人数学級を実現することがまず重要であろう。学校規模を大きくせずとも、手厚い人員配置をする方が教育課題の解消にはよほど有効である。6学級以下を基本に、養護教諭の複数配置、必要な学校へのSCやSSWの常駐配置なども検討すべきである。 その上で、生徒も教職員も大きく成長する場として、地域の複数の学校が交流する行事の企画や運営を行うこともできるのではないかな。かつて実施されていた「高校生春季討論集会」や、支援学校と普通高校の間での「交流のひろば」などはその好例であろう。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
96	「計画期間は、……令和13年度までとする」とある。 今回の「基本計画」第2章の1. 及び2. のタイトルで「配置等の在り方」となっているように、高校教育の再編統合に重点が置かれた計画である。令和3年の義務標準法改正によって、現在、「35人学級」が令和7年度には小学6年生まで、令和10年には中学3年生にまで進行することになる。そのように考えれば、令和13年度までの高校への35人学級の適用も十分検討しなければならない課題だと思うが、なぜ検討されていないのか。計画期間内に想定される要素を汲み尽くしてこそ多面的な検討になると思う。 具体的には、P27の資料「府内公立中学校3年生の増減率の将来推計（令和4年度基準）」（京都市・乙訓地域）に当てはめれば、令和12年度は（40人学級では）8～9クラス減とあるが、35人学級ならば、逆に8クラス増になる。 「公立高校の強み」を言うなら、学級定員の少人数対応を北部地域で行っているように、府立高校全般で少人数教育を進める目標を明示すべきだ。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
97	中学校における部活動地域移行の方向性の中、子どもの体力低下やスポーツ活動や文化活動に触れる機会が低下している。中学生のニーズに応じて、高校が受け皿となる開放型地域SCやジュニア教室などを積極的に展開すべきと考えており、必要な経費や人材の支援をお願いしたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
98	「特色ある府立高校に開放型地域クラブを新たに設置し、中学校部活動の地域移行においての活動拠点にするなど地域のスポーツ・文化芸術活動の推進につなげる。」とあるが、部活動の地域移行が国をあげて検討されている中で、地域移行推進の役割を高等学校が担うというのは、時代に逆行する流れではないか。これでは、高等学校の部活動指導にあたる負担は増加する一方である。現状、部活動を特色として打ち出している学校の顧問の先生は、その業務のために、他の業務またはプライベートの時間を犠牲にしていると感じている。または、本来、その教員が担うべき業務を他の教員に回してしまっているのが現状である。それを本人が気にしていなかったとしても、異動によって別の教員が配置されたときに、同じようにふるまえるとは限らず、持続可能性の低い取組であると思われる。開放型地域クラブを設置するのであれば、その役割のみを担う人材を1名学校に配置するべきである。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
99	府立高校に開放型地域クラブの設置を推進するならば、サッカー、バスケットボール、陸上競技のようにスポーツ競技団体ができる限り高校教員を巻き込まないようにはすべきである。各競技団体が専任のスタッフを雇ったり、高校施設を使用する際に使用料を払うなど自立した運営を行うべきである。高校教員をボランティアスタッフであるかのように利用しなければ運営できないことを競技団体が企画、実施することが間違っている。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
100	京都市を除く、府下の市町村と地元の府立高校との連携は重要であり、北部地域の一部の学校に導入されている地域コーディネーターを今後、全校配置し、活用いただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。

御意見の要旨		府の考え方
101	「探究活動や地域の企業と連携したキャリア教育の企画・運営、地域人材や教育資源との連絡・調整など、府立高校と地域社会との連携・協働を担うコーディネーター体制の整備を進める。」とあるが、現状様々なコーディネーターが府立高校に配置されているものの、コーディネーターは非常に多くの学校を抱えている状況にある。また、地域社会との連携という以上、コーディネーターは地域とのコネクションを持つあるいは構築できる人材である必要があると思われる。コーディネーター体制の構築にあたっては、実用的な人数、配置をもっと具体的に示していただきたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
102	府立高校と地域社会との連携・協働を担うコーディネーター体制の整備について、大いに期待する。学校の特色化の大きな柱となる探究活動では、地域の人材や教育資源の活用が不可欠であるが、その推進に係る連絡・調整は探究活動を担当する教員の過重な負担になっている現状がある。コーディネーター体制が整備されることによって、地域資源が広域的確に活用され、探究活動がより充実したものになり、普通科の魅力化、特色化が一層進展することが望まれる。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
103	各高校の魅力化向上につなげるため、高校魅力化コーディネーターの配置を進めてはどうか。また、出口指導である就職や進路指導に対して外部人材を含めた手厚い指導を期待したい。	コーディネーターにつきましては、府立高校の魅力化に向け、府立高校と地域社会との連携・協働を担う視点から、基本方針をお示しております。 なお、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
104	学習指導や進路指導だけでなく、文化祭や体育祭、研修旅行等、そして部活動等への期待も大きいことを考え、普段の学校の取組を高めることが必要であり、より良い人間関係づくりの場が魅力ある高校であると考えます。 ただ、地域との連携の中で生徒たちが大人になっていく姿を見ると、地域連携に関する取組を進めていくための支援が、予算措置を含め必要と思う。また、広域振興局や地域の企業組合等との連携から探究の授業等を展開することで、地域への理解が深まると思う。	部活動や学校行事等の教育活動のバランスの良さは、府立高校の強みのひとつである視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。 また、「府立高校の在り方ビジョン」に掲げる「地域とともにある府立高校づくり」という理念のもとに、魅力ある府立高校づくりを進めてまいります。
105	「1学年6学級から8学級程度が望ましい学校規模」とされているが、それは40人学級での計算なのか？1クラスを現在の40人学級ではなく30人から25人学級にし、今ある学校を存続していく方向で検討してほしい。丹後与謝の状況を見ると切実にそう思う。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
106	丹後与謝地域では令和2年度に統廃合が実施されたが、学舎制にする必要があったとは思えない。それぞれの学校を残したうえで、小規模校のメリットを最大限に活かす方向で検討してほしい。統廃合に向けての説明会で小規模校のデメリットとして「教職員が確保できず小教科の教員が確保できない」と説明されていたが、府が教育予算を増額し、独自に先生の数を確保すればそのデメリットは解消できたと思う。結局統廃合のメリットは管理職の数を減らしただけではないのか。学舎制となった高校で、学舎制になって良かったという話があり聞こえてこない。むしろ、統廃合前と名前が変わっただけで、何が変わったのかよくわからないという声が聞こえてきている。何がどう変わり、統廃合でどう良くなったのかを分かりやすく教えてほしい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
107	全日制高校の配置のあり方については、少子化の割合に応じたクラス規模を優先するのではなく、どのような新しい高校、どのような特色をもつ高校であるかによって適正なクラス数を決めていただきたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
108	北部の地域では少子化の加速が顕著である。「地元に残って学びたい」という生徒のためにも、「オンラインの授業を行う曜日の設定」や「通学不便の生徒はオンライン授業を認める」等の柔軟な対策をとれるような環境の検討が今後、必要ではないか。	少子化による課題解消のため、ICTの利活用が重要である視点を踏まえ、基本方針を検討してまいります。
109	「スクールミッション」「スクールポリシー」については、ともに学校の概要を美辞麗句で提示するに留まり、具体的に学校が力点を置く教育内容や学校行事、職員の配置や職員に求めている資質等に言及していない(できない)状況が既に予想できてしまう。生徒や保護者にとって、本当に「必要な情報」が何かを考えてほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力の発信に努めてまいります。
110	地域との連携・協働をうたわれているが、地元の小中学校を所管しているのは市町村教委なので、学校独自の連携に限界がある。さらなる府教委と市町村教委との連携や支援の体制整備が必要ではないかと考える。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
111	「学校規模」に対する考え方はよく理解できた。各学年5～6クラスを維持するという方向性もよくわかる。 今後、この方針を進めば、①限られた大規模校のみが点在する②大規模校と小規模校が各地域に混在する、の2つの未来が想像できる。ところで、②のケースでは、結局、推進基本計画で懸念されていること(学級数が少ないことのデメリット)が起こるため、当該校に通う生徒たち自身が、その不利益を被るおそれがある。したがって、②になる場合には、小規模校の方に相当のメリットが生じるよう制度面の追い風をいっそう講じる必要があるかと思う。小規模校に通う生徒が肩身の狭い思いをしないで済むよう、小規模校は「誇れる」「お得な」「手厚い」学校でなければならない。公立であることの意味・意義は、未来ある少数派にも光を当てられることではないか。	少子化による課題解消のため、ICTの利活用が重要である視点を踏まえ、基本方針を検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
112	①全日制高校の項なのに、「基本方針③」に定時制・通信制課程に言及しているのが分かりにくい。 ②府南部地域では「一律的・機械的な平準化は行わない」としながらも、「1学年6学級から8学級程度(学校全体で18学級から24学級)を望ましい学校規模とし、(略)、各地域内における学校の配置・役割を見直す」としているが、 i) 大規模校に対する養護教諭の複数配置基準は800人以上である。つまり、文部科学省も1学年7学級平均は大規模校と見なしている。少子化の進行を危惧するあまり、都市部だから大規模校のままでいいというのは、教育条件整備の方向として後退しているのではないか。 ii) 人口減少による小規模化の難点として、「切磋琢磨する教育活動ができない」という意見が延々と説明されているが、切磋琢磨は学校規模とは無関係な概念です。懇話会の石井京大准教授も「小さな小・中学校で育った」とおっしゃっていた。切磋琢磨論で大規模化を進めるのは教育論として正しくないと思う。 ③一番問題に感じるのは、基本計画では多面的な高校制度の再編が考えられているのに、それが分かりにくいことである。第2章の1.「新しい普通科」への普通科の再編、第2章の2. 京都フレックス学園構想に基づく「定時制・通信制」と全日制的再編統合、第2章の3. 柔軟な教育システムによる新しいスタイルの全日制的再編が計画されているが、2と3の違いも分かりにくい上、それが設置者のスクール・ミッションによって決まるというのであれば、少なくとも小・中学生の保護者や教職員に分かる事前の情報提供が行われるべきだと思う。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
113	スクール・ポリシーやスクール・ミッションの明確化や公表について賛成する。ぜひ中学生にも保護者にも具体的に分かりやすい表現で記されることを望む。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力の発信に努めてまいります。
114	北部地域において、現状のままの学校規模は維持できない。舞鶴2校は丹後のように学舎制のような形を取らざるを得ないと思う。通学の便などを考えると駅から近い西舞鶴が中心になるかもしれないが、校舎はそのまま残し、部活動や学校行事を合同で行うのはどうか。 中丹地域としては現在の生徒数や今後の生徒数減少を考えて、舞鶴・綾部・福知山の中心にある大江高校を、案にあるような選択自由な単位制の新しいスタイルの学校に位置付けてはどうか。敷地も広く施設も手直しせず利用できるのではないか。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
115	行きたい学校に自分の足で行けるよう、また、通学定期等の負担が生じるが、経済的な理由で行きたい学校に行けないということが発生しないよう、配慮していただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
116	学校数減が考えられるが、通学に大きな負担がかかるのは避けてほしい。経済的負担が少ない近隣の公立高校がなくなり、遠距離通学やアクセスの悪い学校へ通学しなければならない状況になることを避けてほしい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
117	学校数減が考えられるが、通学に大きな負担がかかるのは避けてほしい。経済的負担が少ない近隣の公立高校がなくなり、遠距離通学やアクセスの悪い学校へ通学しなければならない状況になることを避けてほしい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
118	新しい普通科など、特色ある学校が各通学圏にバランスよくあるのが良い。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
119	具体的にはどこにどういう学校を作るのか。それに伴って地域(地元)の学校はなくなるのか。	地域別等による実施計画を段階的に策定し、具体的な改革内容を明確にする旨をお示しております。
120	ここ10年以上前から、府立高校は「特色化」を言い続けているが、結局どの学校も、大学進学ができる、部活動が盛ん、行事が楽しいことをアピールするばかりで、全く特色が出てきていないように思う。その間、私学はもとより、京都市立高校では学科改変を積極的に行い、特色を全面的に押し出している。それが、人気や実績の差となって如実に表れているように思う。今回のスクールミッションやスクールポリシーにおいては明確に各校の違いを打ち出すべきだと思う。そしてスピード感をもって実行すべきだ。	御意見を踏まえ、魅力ある府立高校づくりを進めてまいります。
121	生徒数が減っているため、1クラス30人学級など、より細分化された細やかな教育ができるのではないか。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。

御意見の要旨		府の考え方
第2章 今後の府立高校の在り方 2 定時制・通信制課程の魅力化と配置等の在り方		
122	定時制は、夜にしか適応できない生徒や、昼間に仕事をしている社会人、倍率が1倍を割っているからこそ勇気を出して受験できる過年度生等のため、フレックス学園構想に基づく「昼間」定時制に限定するのではなく、夜間の時間帯にも通える学校を残してほしい。	御意見を踏まえ、定時制課程の魅力化を進めてまいります。
123	近年、通信制課程への入学希望者は増加している。特に、中学新卒者は、公私に関わらずその傾向がある。また、小学生から不登校経験のある生徒も増加しており、「自学自習」を旨とする「通信制での学び」に対応できない生徒も増えつつある。 基本方針にもあるとおり「対面授業とICTを活用したオンライン授業によるハイブリッド型の学習」は必須である。 課題は、通信制生徒には学習用端末が導入されていない点である。対面授業におけるICT利活用や、在宅でのオンライン授業には、学習用端末は必須である。経済的に厳しい生徒も多いが、早急にこの状況を改善していただく必要がある。 また、登校しづらい生徒のため、オンライン授業は是非進めるべきだが、「リアルタイム参加方式」に加え、「オンデマンド方式」での対面授業も「出席」として認めるようにしていただきたい。 併せて、レポート等もICTを活用して配付・提出できるようになれば、さらに生徒の利便性が向上する。 以上のように、ICTの有効な利活用により、生徒の利便性の向上から単位修得がしやすくなり、ひいては通信制の魅力や需要がさらに高まるものと考え。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、通信制課程の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
124	定時制教育について、現制度が時代にマッチしていない状況が続いて久しい。働きながら学ぶ勤労青年はほとんどおらず、外国人労働者が中心の学校もあるが、現在の定時制の主体は、成績不振や発達障害、不登校等の何らかの事情を抱えた子どもたちの受け皿になっている。そのような生徒たちを受け入れる学校は公立高校として必要ではあるが、現在の定時制高校ではそのような生徒を受け入れる体制が整わず、教職員の努力に委ねられている。その中で京都フレックス学園構想はニーズにマッチしていると考えられるが、現在の定時制高校で行われている、少人数で個々の生徒と向き合って丁寧に接する体制は、是非継続していただきたい。また、現在定時制教育に情熱を持つ現場の先生方の声にも、十分に耳を傾けていただきたい。 また、通信制高校への入学や転学が年々増えてきているが、その理由や実情を分析する必要がある。教育とは人と人とが関わることが大切であると感じており、スクーリングだけでなく生徒と教員が向き合う場面は、インターネット等を通してでも良いので大切にしていきたい。多様な生徒や多様な選択をしっかりとフォローする意味でも京都フレックス学園構想は重要である。通信課程を設けるのも方法ではないかと感じている。	御意見を踏まえ、定時制・通信制課程の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
125	課程間併修の制度はあるが、具体的な連携の方法を考えないと実施が難しいと考えられる。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
126	近年、中学校でも不登校生徒の割合は増加の一途をたどっており大きな課題となっている。こうした状況の中、卒業後の進路として通信制課程を選択するものも少なくなく、北部では西舞鶴高校の通信制課程入学者が増加傾向にある。 中学校で十分に学習できなかった個々の状況に対応する、将来における成人期の引きこもり状況を克服するためにも、通信制課程で丁寧に学習を積み重ね卒業が迎えられるよう、学習内容の精選、個々の状況を把握した上での指導などを根本から改善していただきたい。	御意見を踏まえ、通信制課程の魅力化を進めてまいります。
127	課程間併修について、受け入れる通信制側は、既に少ない教員と少額の予算で過重負担となっている。これ以上、他課程の生徒を受け入れると、受け入れ側の限度を超え、教員や生徒に不利益が生じる。良好な教育環境のための予算措置、環境整備、教員の人員増を推進していただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
128	不登校のわが子の志望先として、昼間定時制の清明高校に興味があるが、自宅からは1時間半近い距離にある。授業開始時間を遅く設定しても、通勤ラッシュに揉まれるのが不安で通学できないと判断し、より近い京都市立京都奏和高校を希望校としている。ただし、志願倍率が高く合格するか不明である。 不登校の子が増加している今、学校生活をやり直せる昼間の定時制高校、もしくはフレックス的な公立高校が山城地域にも増やしてほしい。	御意見を踏まえ、定時制課程の魅力化について検討してまいります。
129	3年に及ぶコロナ禍を経て、高等学校では、不登校等により通信制への転学が増えていると聞いている。また、小・中学校でも不登校児童・生徒が増加しており、今後高等学校へ進学した際には、ますます、不登校により単位修得ができずに、通信制高校への転学の増加が危惧される。 生徒にとって、折角入学しても、転学をせざるを得なくなり、通信制高校に転学せざるを得ないのは、人生にとって大きな挫折であり、その後の社会参加にもハンディを背負うことになる。定時制・通信制との共修制度等を活用し、卒業単位を柔軟に対応することで、入学した全日制で卒業できるような、柔軟な制度構築が急務であると感じている。 私は、本来全日制で学び、卒業すべき生徒は、全日制の枠の中で教育するべきであると考えている。	御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる高校づくりを進めてまいります。
130	府立高校に限った話ではないが、全日制・定時制・通信制という課程のくくり方自体が実態に合わなくなっているのではないかと。 74単位以上で卒業を認めることや、履修・習得を認める出席時数等にも幅を持たせるなど、緩やかな全日制高校という発想は必要だと思う。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる高校づくりを進めてまいります。

御意見の要旨		府の考え方
131	小中学校における不登校児童生徒の増加に対応するには、通信制課程の魅力化が重要と考える。全日制や定時制よりも通学の負担が小さく、ICTの活用や少人数での学び、個別最適化された学びが可能であるとする。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
132	夜間定時制課程に外国につながる生徒が増加する全国的な傾向がある。今後、技能実習生から特定技能への移行が容易になることから、家族滞在による児童生徒が増加すると予測できる。さらに日本国内での永住を希望する場合には、高校卒業資格取得を目指す外国人生徒がほとんどと思われる。府立高校においては外国につながる生徒に対する日本語指導の拠点校を設け、他の府立高校や小中学校との連携や支援を果たしてはどうか。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
133	夜間定時制設置校は全国的に減少傾向にあるが、少数であっても一定の希望生徒が存在することから、すべてなくすことには反対である。少人数授業により生徒と教師間の関係が近く対人関係を学ぶことができる。働きながら学ぶことにより社会生活を経験しながら自立をめざすことができる。静かな夜間に落ち着いて授業に参加できることなどのメリットを生かすべきと考える。	御意見を踏まえ、定時制課程の魅力化を進めてまいります。
134	府立高校の在り方にある定時制・通信制課程の魅力化の在り方について、定時制の学校への偏見などの改善があると良い。府内でのボランティア活動などの機会を作るほうが良いと思う。その活動を府民だよりなどで見てもらうなどして、特に若い人たちに良いイメージをもってもらいたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
135	「本来の設置趣旨である勤労青年に対する高校教育の機会を保障する場」から「多様な生徒が学ぶ場へと役割が大きく変化」したのは、今に始まったことではなく、40年近く前からである。府立高校通信制の生徒が急増した時期は、類型制度が導入された時期と重なっており、その頃から通信制課程は全日制課程の矛盾を、吸収しきることではできなかったが吸収してきた。 またアンケート結果として、定時制生徒の多くは「少人数での学習指導等により全日制課程よりもゆったり学べることに魅力を感じており」「現在の昼間定時制単独高校には、旧来の昼間定時制高校に比べて多くの生徒が希望している」という実態がわかっている。これは裏返せば、現在の全日制高校が生徒にとって非常に窮屈で居心地の悪い状態になっているということである。小中学校での不登校生徒が史上最多となっているが、全日制高校においても、本来入学してくるはずの生徒が全日制高校を敬遠したり、あるいはいったん入学してきても転退学したりという実態があるのではないだろうか。かつてに比べると、進級できなくなった生徒が再び同じ学年で学ぶことはほぼなくなり、通信制などへ転学していく。これまでの多様な路線・特色化路線は、各校が進学実績と部活動実績を競い合い、生徒集めに奔走しなければならぬ状態を作り出してきた。そのことが学校の余裕やゆとりを奪ってしまっており、さらなる不適応や不登校を生み出しているのではないだろうか。まずは全日制高校の教育条件を「少人数での学習指導等」ができるように、また進学実績や部活動実績を競い合うばかりではなく「ゆったりと学べる」ようにすることが必要である。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
136	子どもの数の減少により、高校の数を減らす流れになることは致し方ないが、具体的に社会が求める人材を育てられる学校はどこなのかを精査して存続や再編を検討してほしい。	計画内容に御賛同いただき、ありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。
137	定時制という夜間定時制をイメージするが、今後も夜間定時制は続けてもらえるのか。一方、昼間定時制を目にするが、他の全日制とどこが違うのか、特に新しいスタイルの全日制高校とどう違うのか、なぜ必要なかわかりにくい。	御意見を踏まえ、定時制課程の魅力化を進めてまいります。 なお、新しいスタイルの全日制高校については、単位制による柔軟な教育システムを活かした視点が重要であり、その視点を踏まえて基本方針を検討してまいります。
138	京都府以外の県では、定時制・通信制高校は全日制とは別に規模の大きい単独校である場合も多いようだが、今後は京都府でもそのようになっていくのか。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
139	全日制に進学したが、精神面で登校が難しく通信制へ転学する例が増えている。また中学卒業時点で通信制の選択をする生徒も増えている現状から、通信制は学びのシステムとして残していく意味があると思う。案にある他の課程と連携して単位修得できるシステムは魅力的である。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、通信制課程の魅力化を進めてまいります。

御意見の要旨		府の考え方
第2章 今後の府立高校の在り方 3 柔軟な教育システムによる魅力化 (1) 新しいスタイルの全日制高校		
140	登校困難な子どもに対しては、リモートや添削での授業参加が当たり前にできるようにしていただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
141	1つの事に特化して興味を示し追求する子どもに、他の教科の単位免除を入学後にもできるようにしていただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
142	緩やかな教育課程と複合的な教育システムによる新しいスタイルの全日制高校は、各通学圏に1校は設置する方向で検討してもらいたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
143	中丹地域に、課程を問わず、多様な生徒のニーズに応える、柔軟な教育課程の高校が必要である。 必修科目の単位修得ができず、卒業ができない生徒が一定数いると思われる。そういった生徒であっても、履修認定により卒業できるようなシステムの学校が必要である。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
144	通学時間帯や科目が選択できるのは、個別のニーズに合わせるという意味で、今の時代にマッチしている。各地域に最低1校作り、住んでいるところに左右されず、異なるニーズを持つ生徒に対応でき、多様性を尊重する高校教育が実現できると思う。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。 個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
145	小中学校では不登校が増え、発達障害の子どもの問題もよく聞く。こういう状況に合わせて、教育制度にも変化が必要だ。 卒業の基準を緩めることで、生徒にとって緩やかな学習プロセスを提供でき、生徒は自分のペースで学び、自分の興味や目標に合わせた科目を選択できる。半期制の単位修得も可能にすることで、生徒が効率的に進学や職業への準備を進めることができるのではないかな。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる新しいスタイルの全日制高校づくりを進めてまいります。
146	日本人は往々にして、皆で同じことをすることを美德と考えがちである。「平等な参加なのだから、みんな一緒に同じことをしなければいけない」というやり方が小中高と貫かれており、それが不登校やいじめの原因になっている。もっと子供たちの多様性に注目し、のびのびと過ごせる柔軟な学校づくりを進めるべき。	御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる新しいスタイルの全日制高校づくりを進めてまいります。
147	学びの形が多様化する今の教育において、試験のための勉強ではなく、興味を持って探求(探究)する学びなどの自ら学ぶ力を育むことができる高校づくりを進めていただきたい。中学校では高校の受験に影響するため、内申点をとらないといけなプレッシャーがあるように思う。テストや提出物に追われることで終わってしまう学びではなく、1人1人の子どもの自ら探求(探究)したり実験したり、作ったりしたことを大切にしていきたい。	御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる新しいスタイルの全日制高校づくりを進めてまいります。
148	柔軟な教育システムによる魅力化(新しいスタイルの全日制高校)についても、多様な生徒を受け入れるという観点で大切なことだと感じた。ただ、計画でも触れられているように、既存の高校との関係性は問題だと思う。一方で学級数減に対応して設置を見直し、他方で新しい学校を設置するとすると、理解を得るのが難しい場面もあるのではないかな。 また、新しいスタイルの高校に限らず、現在でも柔軟な受け入れ体制を整えるために教員の負担が増加している現状があるため、教員の負担の軽減、あるいは負担の公平化といった点も気になった。	御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる新しいスタイルの全日制高校づくりを進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
149	・オンラインと対面のハイブリッドが可能な全日制普通科をつくってほしい。 ・必修単位に含まれない自由な選択科目をつくってほしい。	御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる新しいスタイルの全日制高校づくりを進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
150	北部地域でも義務教育段階から学校への行きづらさを抱える生徒など、様々な新たなニーズが生じているように感じる。幅広い課題を解決するためにも、新しいスタイルの全日制高校設立の考えに賛同する。その場合、その立地については考慮願いたい。人混みが嫌いだらうから交通の便の悪いところに建てるという短絡的な考えでなく、やはり交通の便が良いところに建てるべきと考える。通信制や遠隔地教育に特化した学校でもない限り、週に1度または毎日通学する。堂々と交通の便の良いところに立派な校舎を建ててほしい。この先10年を見通して、人気校になるような学校を望む。「魅力ある府立高校づくり」にふさわしい「通いたくなる学校」が新たに誕生することを切に望む。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる新しいスタイルの全日制高校づくりを進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
151	全国的に不登校の児童・生徒が増える中、文部科学省が不登校生徒を対象とした特例校を「学びの多様化学校」と改めて、対応を進めようとしているようである。中学校だけでなく、もっと柔軟で多様性を認めるシステムをもった高校があれば良いと思う。全定通の課程に固執せず、各課程の単位修得のシステムの利点を活用できるようなシステムがあっても良いのではないかな。1週間の内、何日間は通学して、残りは通信制のシステムやeラーニング等で単位を修得できたり、大学での講義受講、ボランティア、技能実習などにも単位認定して、高卒に必要な単位として認めても良いのではないかな。74単位で全日制が卒業できても良いと思う。 世界大会や海外遠征の多い10代のトップアスリートの生徒は全日制高校には通えない。特定の能力に秀でたギフテッドの生徒にとって、一部の高校の科目は物足りないかもしれない。多様性を認めるのであれば、ある程度は柔軟な高校のシステムも必要ではないかな。高校が朝から夕方まで、休日も生徒を拘束し続けることに意義を見いだせない生徒もいるのではないかな。従来の概念を変えるような新しい高校に期待する。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる新しいスタイルの全日制高校づくりを進めてまいります。

御意見の要旨		府の考え方
152	・現在、学校の裁量や各教員のマンパワーに依存せざるを得ない外国籍生徒の支援を府として制度化する。（「特別な教育課程」では十分な支援には繋がりにくい。日本語が不自由な生徒の取り出し授業、日本語教室、単位認定、進路保障等） ・卒業単位を74単位に設定し、緩やかな教育課程で多様な生徒に対応するシステムは必要。 ・通級指導が可能な学校を増やすべき。 ・様々な課題を抱えた多様な生徒のニーズに応えるため、より少人数での授業や個別指導が展開できる体制（教員数確保等）づくり。 ・発達上課題のある生徒等への対応が日常的に可能となる専門家の配置（常駐）。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる新しいスタイルの全日制高校づくりを進めるほか、個別の施策に関する御意見につきましては、今後の・事業検討の際の参考とさせていただきます。
153	新しいスタイルの全日制高校にも魅力を感じる。ぜひ進めてほしい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる新しいスタイルの全日制高校づくりを進めてまいります。
154	南部は、私立高校が多いというが、経済的な問題で通えない子がいないように、上位、中位、下位校などまんべんなく公立高校は必要である。今、トップ校といわれる堀川高校は市立高校である。御三家の中にも府立高校は嵯峨野しかない。学力のある子どもは市立高校か私立高校に流れているのではないか。勉強したい子はより高みを目指せるように、専門的な勉強をしたい子はより専門的なことを学べるように、学びたいことを後押ししてあげる環境が必要ではないか。	御意見を踏まえ、多様化する学習ニーズに応えることができる新しいスタイルの全日制高校づくりを進めてまいります。

御意見の要旨		府の考え方
第2章 今後の府立高校の在り方 3 柔軟な教育システムによる魅力化 (2) 特別支援教育の充実		
155	知的障害を伴わない発達障害を抱えている子どもにとって、小学校や中学校のように安心して通える場を府立高校にもつuckingていただきたい。 フレックス学園構想に基づく昼間定時制高校への進学も考えているが、近隣の府立高校にも特別支援学級を設置していただけると、発達障害を抱える子どもの選択肢が広がる。	御意見を踏まえ、府立高校における特別支援教育の充実を進めてまいります。
156	府立高校の在り方ビジョンの計画期間が「令和4年度から令和13年度までの10年間」であり、「基本計画」は計画の策定後からビジョンと合わせて令和13年度までとなっているが、不登校生徒の増加、特別支援学校入学者の増加等を見れば、9年、10年と待っていては手遅れと言わざるを得ない。 京都フレックス学園構想の清明、清新高校の昼間定時制2校で通級指導教室を進めているが、これが無い地域については2～3年の内に進めていく必要があるのではないかと。 また、これに位置付けていないすべての府立高等学校においても、特別な支援が必要な生徒が在籍するため、通級指導教室まではいかなくとも、大学の「学生相談室」のような相談場所を設置し、さらに充実させることとし、スクールカウンセラーや特別支援学校の地域支援コーディネーター等の協力連携でこれを進行させていくことはできないだろうか。	御意見を踏まえ、府立高校における特別支援教育の充実を進めてまいります。
157	・共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のため特別支援教育を推進することになっているが、3(2)の「特別支援教育の充実」の「基本方針」の一点目の文章はその流れ、順序が逆ではないか。 ・1(3)京都府立大学附属高校化に関わって、北桑田高校、農芸高校の名前が掲載されているが、「農業分野」において、特別支援学校高等部を併設して、インクルーシブ教育を進められないか。 「農業分野」は農福連携が注目されているところでもあるので、障害のある生徒の進路としても今後ますます伸展が考えられる領域でもある。 特別支援学校側からすると、山城圏域にのみ職業学科があるが、中部以北にそれがない状況はいかがかとも思うため、そういった観点でも特別支援学校の「農業学科」を検討してはどうか。 ・数年の検討を待てない地域、児童生徒増の急激な特別支援学校にあっては、この意見募集の意味からずれるが、小中学校とのインクルーシブ教育システム検討も含めて進めていかないといけないほど切迫した問題であると考ええる。 この視点からだけでなく、最初に戻って、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築」であるのだから、早期から打って出る意味は十分にあると考えられる。	府立高校における特別支援教育の充実に向けて、インクルーシブ教育システムを支える教育環境整備の視点をお示ししております。 なお、個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
158	高等学校においても多様な生徒が増加している現状を踏まえ、今後、高等学校におけるインクルーシブ教育の在り方を模索し、ぜひ共に学ぶ仕組みづくりを具体化していったほしい。 そのためには、高等学校における多様な生徒の在籍状況や、支援の現状、課題等についてエビデンスのある検証が必要であり、それを踏まえて今後の施策を展開すべきであろう。 現在、各特別支援学校の地域支援センターにおいては、高等学校からの相談事例等が蓄積されていることが考えられ、こうした事実を分析・検証し、望ましいインクルーシブな教育環境の創造に貢献する立場にあるのが「京都府スーパーサポートセンター」ではないかと考える。 こうしたことから、基本方針の一つ目、「～また、各地域の地域支援センターとの連携を強化する。」を「～また、京都府スーパーサポートセンターをはじめ、各地域の地域支援センターとの連携を強化する。」とされることを提案したい。	御意見を踏まえ、「京都府スーパーサポートセンター」との連携といった視点を踏まえて、基本方針を検討してまいります。
159	高校での特別支援教育を前進させていくことが喫緊の課題である。昼間定時制では、現在、研修機会の充実も含めた課題が山積していると思う。一方で、肢体、知的障害に加え、発達障害の生徒が多数、通常高校にいることへの対応を深めていくことが全ての高校で必要であるが、現状は低空飛行の教員個々での対応が続いていると言わざるを得ない。関連した支援学校高等部の満杯状況については、後付けのインクルーシブ教育で高校への安易な分校設置等は新たな課題を生んでいくことが明確であることを肝に命じて教育政策を進めてもらいたい。	御意見を踏まえ、府立高校における特別支援教育の充実を進めてまいります。
160	特別支援教育の充実は必須であると考えますが、実のあるインクルーシブ教育の実現には今の教員数では不十分だ。今の教員数で障害のある生徒とない生徒が共に学ぶというのは教員の専門性と負担を考えればメリットよりデメリットの方が多いように感じる。特別支援学校と同様の人員配置が不可欠だ。	御意見を踏まえ、府立高校における特別支援教育の充実を進めてまいります。
161	通級による指導の導入に賛成である。現在、特性のある生徒や支援が必要な生徒が、全日制高校に進学(在籍)するケースが増加傾向にある。現行の全日制高校の制度では、その対応は限界にきている。インクルーシブ教育を推進していく観点からも高校における通級学級の制度等、早急に環境整備を願う。 昼間定時制ではなく、全日制において通級による指導等が行える制度の構築を切に願う。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校における特別支援教育の充実を進めてまいります。

	御意見の要旨	府の考え方
162	特別支援教育の充実では、「特別支援学校高等部の分校の併設」が述べられているが、併設するだけではこれまでの全日制定時制併置、全定通併置と変わらず、互いの意義ある交流は望めない。インクルーシブな教育を進めていくのであれば、まずはすべての全日制課程自体が、「多様で幅広い生徒の個性や能力、学習ニーズや様々な将来の進路選択等に応えていく」だけのゆとりや教育条件を持つべきである。現在でも障害のある子どもたちが普通高校に多く在籍しており、その支援をどう進めていくかを、専門的知識のある人の配置も含めて考えなければならない。また必要であれば支援員を配置したり、保健室登校(別室登校)を認めたり、教育課程を弾力化したりといった工夫が必要である。一方特別支援学校への入学者が増加傾向にある中で、分校併設というような形ではなく、支援学校の増設や、意義のある寄宿舎の運営を求めたい。(「全国からも生徒を集めるための制度や寮」について、「5 学校施設等の整備」で述べられているが、改めて公立高校の責務とは何かを考えてほしい。まずは京都府の、ごく普通の高校生のために、少人数学級の実現や特別支援学校の増設が優先されるべきである。)先に述べたように、普通科高校の生徒と支援学校の生徒が交流する一日行事「交流のひろば」などの取組は、生徒も教職員も成長できる非常に貴重なものである。そのような取組を通してこそ、インクルーシブなものの見方が醸成されていくはずである。	府立高校における特別支援教育の充実のための基本方針をお示しております。個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
163	①特別支援学校高等部の分校を高校へ併設しても高校のインクルーシブ教育は進まない。 【基本方針】の「特別支援学校高等部の分校を高等学校に併設して、府立高校のインクルーシブ教育環境を構築する」というのは、同一校地内に別の学校を置くだけであり、高校の特別支援教育を充実させることにはつながらないのではないかと。一方、障害のある子どもたちにとっては、高等部との十分な連携が取れなくなるのは、教育計画として後退になるのではないかと。 ②分校併設よりも、ただちに特別支援学校の校区再編や学校増設をしていただきたい。 分校にすることは学校を作るよりも教職員配置や特別教室などが安上がりになるが、障害のある子どもにとっては支援学校の高等部で学ぶよりも条件面で悪化することは明らかである。宇治・城陽地域や亀岡地域など、特別支援学校の児童生徒数増、教室不足に対応して新設校をつくったり、校区再編をしたりすべきである。 ③高校の中でインクルーシブ教育を実現させるのが本筋である。 障害のある子どもたちが学校によって数の違いはありながら、高校の中にも在籍していることは間違いない。ただ、全日制普通科を中心に「合理的配慮」についての判断も困難で、転・退学になることも少なくない。障害のある子どもたちが通常学級の中で障害のない子たちと一緒に学び、自由な進路を選択できるように改革していくために検討、条件整備こそ進める必要があるのではないかと。	府立高校における特別支援教育の充実のための基本方針をお示しております。個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
164	府立高校に特別支援学校高等部の分校を併設する方針が示されているが、府立高校でのインクルーシブ教育環境の構築という目的と同時に、高校で空き教室が増えている一方で支援学校の教室が不足しているという背景があると考えられる。本来は支援学校の新設で対応すべきであり、高等部だけの分校を設置すると支援学校がこれまで大切にされてきた小学部、中学部、高等部の一貫した教育をどう維持していくのか、という課題も生じる。また現在の40人学級を35人に、将来的には30人にしていくことが、府立高校の魅力につながることを考えると、高校の空き教室は学級定員を減らすために活用すべきである。 インクルーシブ教育を進めていくためには、府立高校の教職員が支援学校で何年か経験を積んで府立高校に戻る、あるいは逆に支援学校の教職員が府立高校で何年か働いて支援学校に戻る、といった人事異動を制度化することが有効ではないか。これが実現すれば、府立高校の通級による指導がなかなか広がらない現状を変えていくことにもつながるはずである。人的資源にも視野を広げた府立高校づくりの計画を期待する。	府立高校における特別支援教育の充実のための基本方針をお示しております。個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
165	高校における特別支援教育と特別支援学校高等部と高校の併置によるインクルーシブ教育の推進とは別の課題である。高校の制度の中で特別支援教育をどう進めていくのか、特に全日制高校におけるそれをどう進めていくのか、具体的な案を示してほしい。障害者権利条約時代においては、学びの場を当事者や保護者が決定する。そのために学校設置者は可能な限りの配慮を求められる。全日制高校で学びたい障害をはじめ様々なニーズのある子どもへの対応が求められている。 これに関わって、以下の点について、今後あきらかにしてほしい。 ・全日制高校の通常学級の特別支援教育の進め方を示してほしい。 ・さらなる支援員増や特別支援教育加配などの人的な配置は計画されていないのか。 ・中学校の特別支援学級を卒業した生徒の全日制高校での支援や配慮を示してほしい。 ・手帳取得や福祉的就労など、卒業後に必要なサポートを受けるための具体的な取組を保護者に提示してほしい。 ・高校と特別支援学校高等部の併設とあるが、両者がクロスする具体的な教育課程の構想を示してほしい。また特別支援学校高等部生徒の教育課程について、特別支援学校中学部の教育課程との連続性をどのように保つのか示してほしい。 ・特別支援教育を行うには1クラスの生徒数を減らすことが大変重要だと思う。高校の1クラスにおける生徒数を減らして少人数学級を実現していく計画を示してほしい。 ・通級指導ができる学校を拡充するとあるが、どういったペースで拡充するのか。	府立高校における特別支援教育の充実のための基本方針をお示しております。個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。

御意見の要旨		府の考え方
第2章 今後の府立高校の在り方 4 学校施設等の整備		
166	北桑田高校は、普通科も京都フォレスト科も少人数を活かした生徒と教職員の距離が近い丁寧な教育で、学習や部活動、学校生活でも生徒が生き生きしている。特に京都フォレスト科では全国的に見ても素晴らしい内容であるにもかかわらず、毎年定員に達していない。一方で京都府内や他府県からの希望者も多いものの、寮に入ることができないので諦めている中学生や保護者が多いと聞いている。もし、京都府立大学の附属高校となることができれば素晴らしいと思うが、併せて寮を新しく大きくすることにより、生徒が増加し、地域にも活気が出ると思う。 普通科の生徒たちも素直で優秀な生徒が多く進路実績も素晴らしい。普通科も附属高校として更に発展することを望む。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、職業学科設置校においては、寮や産業教育設備など特色ある設備等の整備の推進が必要という視点から、基本方針をお示ししております。
167	高校の施設が古く、子どもたちがかわいそうだ。 ある高校のトイレは、目かくしにカーテンがしてあり、ソフトテニス部のネットはボロボロ、水はけも悪そう、審判台は座席が抜け落ちていて危険等、古さが目立つ。安心して子どもを通学させられるよう、修繕していただきたい。 私学助成金より、府立高校の設備の整備、特に古い学校の施設を見直していただきたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりににおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
168	入学生は、学校選択時に学校施設・設備をよく見ている。府立高校に対して府からの財源投資を充実させていただきたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりににおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
169	学校施設・設備への投資が不十分だと思う。また、安心な教育環境のためにも、耐震化の観点からの設備投資も必要と思う。 学校施設・設備への投資を進めていってほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりににおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
170	誰もが高校に進学できるような仕組みにしてほしい。学力が高くない生徒でも高校に入学可能のように、試験をせず、面接だけの選抜制度にしてほしい。 ICTが利用できるよう、設備を整備してほしい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりににおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
171	・施設の老朽化(雨漏り等)が進み、何とか維持している実態がある。生徒の学習環境を整備するための予算措置が必要である。特にトイレは管理棟以外のトイレの整備をしてほしい。 ・全生徒がBYODを利用するため、教室だけでなく体育館や視聴覚教室、特別教室など、校内のwi-fi環境の整備が必要である。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりににおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
172	空調とトイレの快適性をはじめとする学校施設の整備状況は、生徒が学校を選択する際、大きな要因となっているようだ。 府立学校の校内の一部分は、洋式トイレに改修され、また、空調もホームルーム教室等には整備されているようだが、トイレは全館改修、空調も全教室に整備する必要がある。 また、老朽化の激しい個所については、施設の安全性を確保するため、早急に改修の必要があると考え。 大阪府や奈良県では、高校私学授業料の無償化が始まり、京都府も同様に始めることとなれば、学校施設の整備が行き届いた私学を選択されるのは道理といえる。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりににおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
173	空調とトイレの改修は長期的な計画も含めて、学校関係者だけではなく広く府民にも計画的に改修していることを情報公開し、理解を得られるようにしてほしい。 職業学科については、遠方から通学している生徒が多いと思われるので、寮の整備が急務である。寮の食堂運営に関しては、委託業者が破産するなど全国的な課題となったので、委託業者の選定方式を改善し、一般競争入札からプロポーザル審査方式にするなど、改善を図るべきである。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。 なお、魅力ある府立高校づくりににおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
174	府立高校の施設設備については、特に私立高校との間に格差が生まれてしまっている。音楽室や調理室等の特別教室に空調設備が整っておらず、今年度のように厳しい暑さが続くと、授業そのものを行うことが難しい場面もある。また、体育館についても、暑さのため夏季休業中の使用を断念せざるを得ないことがあった。各校のハード面でどれだけ改善することができるかについては、府立高校改革の大切な要素だと思う。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりににおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
175	私立高校、市立高校と比べても、府立高校の施設設備面での不十分さは際立っている。府立高校の魅力化の基盤となる環境整備をお願いしたい。都道府県立高校の環境は、その都道府県の教育に対する力の入れようがあらわれるという意味でも、ぜひ府立に予算を割いていただきたい。 ・Wi-Fi環境(一人一台端末を保護者に負担させているにも関わらず、すべての授業で十分に活用できない通信環境) ・トイレ(全校、全トイレが同程度の環境ではない。生徒・保護者の満足度も低い。) ・体育館、格技場等の屋内運動施設の冷暖房環境(温暖化の急激な進行に対応できていない。このままでは府立高校では夏季に運動ができなくなる。) ・教室の冷暖房施設(年間、どの学校でもどこかの教室で破損がみられ、生徒の授業に差しさわりが出ている。) ・「教育の特色化」のカギとなる各校の特色ある授業、教育活動を展開できる、施設設備の「特色」がない。特色化、魅力化の限界をつくる要因ともなっている。(高度な理系学問に対応できる実験施設・設備。少人数での主体的・対話的で深い学び、探究活動が展開できるユーティリティルーム等。)	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりににおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
176	中学生の高校選択の要素に、「施設・設備の充実」が上位にある中、トイレの洋式化や校舎の改築、特別教室の空調等を計画的に進めていただきたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
177	府立学校の施設設備の老朽化は目に見えて分かる。再編による集中予算配分で生徒の学習環境を整えて行くことが重大課題だと思う。また、ICT環境が悪い。コロナ禍の初期に大学がオンライン講義を実施したときに多くの大学でサーバーダウンした。今の府立学校のICT環境ももっと大量に使用すれば間違いなくそうなる。やはり、ハードを整えないと端末を活用できない。これも重要課題である。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
178	高校の統合によりひとつの高校の予算が増やせるのなら、施設の整備や、将来の職業選択に役立つ講座や様々な経験ができる機会を増やしていただきたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
179	府立高校のために予算を充実させていただきたい。私立高校と比べると施設が見劣りする。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
180	校舎・トイレ・空調・ネット環境など、学校施設・設備の充実は中学生や保護者が最も魅力を感じる場所である。私学との差はあまりにも大きく、多くの家庭で授業料無償化となっている現状では私学人気は高まるばかり。本気で府立高校の活性化を考えるなら、もっと予算を投入すべきである。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
181	新たな試みの中で、新しい教育を進められるにあたって、目標の具現化に耐えうる人材(先生・生徒)、教材、環境が必要となるため、中腰を入れた環境整備・条件整備をお願いしたい。公立高校間で都市部と郡部で格差が感じられることは良くないと思う。公教育においては、人口比によって差のない整備を期待している。また、働き方改革が叫ばれる中、教員が忙しくなるような不安定要素は、ソフト面もハード面も限りなく取り除き、教育活動に集中できるように進めることも必要だと思う。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
182	・校舎の増改築や施設・設備の更新について、スケジュールが示されれば、中学生の学校選びの材料になると思う。 ・校舎の老朽化が激しい学校は、長寿命化による対応ではなく、校舎の新築で対応してあげてほしい。 ・教育のデジタル化、空調設備については、少しずつではあるが対応いただいていると感じている。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
183	① 体育施設(体育館)空調設備の必要性について 近年の異常気象で、夏の気温は過去に例のない状況になっている。実際6月中旬～9月下旬の約3か月半は体育施設については、配慮をしなければ活動ができない。この時期は、体育館は学期始末の式典や文化祭などの行事が行われるが、近年では異常な暑さで本来の内容の実施は困難となっている。近年の気候状況では、夏季の空調設備無しによる教育活動は困難である。 ② 部活動施設について 今後の府立高校を鑑みた時に、部活動においてはすべての学校に、すべての運動種目施設の充実が困難であると思う。しかし、学校により種目を限定した種目の施設充実は必要である。過去の部活動顧問の「マンパワー」に頼るだけでなく、施設環境の充実が魅力ある次代の府立高校には必要と強く感じる。 ③ 新校舎の発想 日本は150年来、学校の校舎内教室は、一斉講義形式ができる形から変化がない。京都市立開建高校が、今までの教室の概念が変わる新感覚「新たな学びの空間」の校舎を設置したと聞いている。府立高校においても、特別な予算を組んだ新たな発想の取組が必要ではなかろうか。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
184	府立高校の施設・設備の充実をお願いしたい。 生徒が安全で安心できる環境下で教育活動を行うためにも老朽化した施設や設備の改善が必要だ。(洋式トイレ拡充・全教室の冷房化・ICT環境 等) 特に、職業教育を主とする専門学科では、専門教育に関わる施設・設備を充実させることで質の高い魅力ある教育が展開できると思う。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
185	私立高校に比べて府立学校の施設設備については老朽化や整備の遅れが目立つ。すべてのトイレの洋式化やすべての教室のクーラー設置をお願いしたい。また、近年の猛暑から熱中症対策のため体育館の環境整備(できればクーラー設置)も必要なのでないか。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
186	学校施設の改修については、適切に行っていただきたい。 学校運営を逼迫させているものの1つとして、物価・電気代の高騰がある。近年の気象状況から、これらにかかる費用は非常に大きい。 このことを踏まえて、学校施設の屋上を利用した太陽光発電の導入を提案する。設置規模としてどの程度のコストがかかるのかはわからないが、日中非常に多くの人が集まる場所であるから、こうした場所で太陽光発電を行い、エネルギーを賄うことは理にかなっていると思われる。日中の電氣量を最も必要とする時間帯について、太陽光発電で30%でも賄うことができれば、使用最大電力量が少なくなり、1ヶ月の使用電力量及び来年度電気代の基本料金も下がる。全体でコストが下がれば、学校のさらなる施設改修に予算を回したり、運営費を別のところに利用したりすることもできるはずである。現在では、各家庭でも電氣の自給が促されている状況であることも考えると、こうした施設改修の方法も検討してよいのではないか。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
187	全日制課程の魅力化と配置等の在り方の(2)でも述べられているが、職業学科では産業社会の進展に即応した魅力ある職業教育を推進していかなければならない。しかし、近年の普通科への偏重傾向や、中学生段階で将来の進路が描ききれない、卒業後の進路状況や魅力が伝わっていないなどの理由で、職業学科を希望する生徒は減少傾向にある。 産業社会の技術革新や進展に合わせ、職業学科の学校施設・設備等が更新・整備され、充実することによって、社会の変化や産業の動向に対応した質の高い職業教育を維持することができ、実社会で求められる実践的な能力の育成、及び職業人として求められる知識・技能の高度化への対応が可能となる。また、そういった高度な知識・技能を身につけることが、どのような進学・就職につながるのかを具体的なビジョンとして示すことで、職業学科がより魅力化し、中学生に積極的に選ばれる学科になることが期待される。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
188	公立高校、私立高校の学校説明会へ参加し、校舎見学をして感じたことは、私立高校では、校舎、体育館、トイレ等が綺麗であり施設・設備が充実している。公立高校では施設・設備が昭和の遺産のように感じている。 施設・設備の面でどちらを選ぶかと言えば、やはり私立高校の綺麗で施設の充実した所で学ばせたいと思うのは当然だと思う。 しかしながら京都府民としては、税金を是非とも公立高校の施設、設備の充実に使っていただき、家から近い公立学校が、施設・設備が綺麗で安心して通わせることができる魅力ある学校であってほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
189	エアコン・トイレ等に関する整備はもちろんだが、快適な教育環境の整備として、教室以外の専門教室や芸術に関する実習教室でも、エアコンの整備が必要になっていると感じている(昨今の6月から10月上旬までの気温の上昇を考えると必要である)。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
190	学校施設・設備面へのICT化を含む探究活動への配慮や、府立高校での給食業者の破綻による給食供給の不安定化、海洋高校での寮の定員不足等に伴う不安定要素の改善を図るため寮で生活する生徒の生活の安定などについて、追記すべきである。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
191	高校1年生を対象とした、アンケート調査によると、府立学校に係る改善要望として、特に多いものが、トイレやエアコン等の施設・設備に対するものである。これらは、私立高校を基準として考えると、現在の府立高校のレベルは、遠く及んでいない。学校生活を安心して送るために、早急に整備をお願いしたい。 丹後地域には、昭和63年の京都国体を契機に、地元根付き、現在も京都府の代表選手を輩出する代表するスポーツ、レスリング、ウエイトリフティング、カヌー、(新体操)などが存在している。しかしながら、少子化の影響を受け、学校規模が縮小する中で、部員数の確保に苦労している。開放型地域クラブの早期導入に賛成である。また、府内はもちろん、全国から生徒・選手を募集できる制度の整備とともに、受け皿としての寮の設置を推進して欲しい。ただし、府が整備を行うことに加えて、地元市町の力を借りるなど、地元市町との連携を進めることで、地域に根差した府立高校づくりにつながると考える。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
192	京都市を除く地域における府立高校が特色化を進めるほど通学区域の拡大が必要である。職業学科設置校に限らず、人口減少が激しい地域の高校にこそ新たに寮を設置し、府内各地だけでなく、他府県からの入学生も想定したい。全国でも京都のその高校にしかない特色を出すには地域連携が必須と考える。 寮の設置は民業の圧迫とも受け取られるかもしれないが、そもそも児童生徒がいなくなる地域の振興策には限界があると感じる。寮生活を通じて、その土地をよく知る若者を増やし、地域の発展につなげてみてはどうか。また、長期休業中には、寮を活用した府南北間の生徒の交流、例えば、探究活動や部活動等にも活用できると考える。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、職業学科設置校においては、寮や産業教育設備など特色ある設備等の整備の推進が必要という視点から、基本方針をお示ししております。
193	画一的な整備ではなく、各学校の特色、魅力化に合わせた重点的な整備(教員配置を含めて)を支持する。 理由)私立高校はもちろん市立高校においても、学校施設の新設(新築)や改善が進んでいる。市立高校においては、京都工学院高等学校の開校以来、開建高等学校、美術工芸高等学校と次々に新設校が開校している。また、他の学校においても、重点的にその特色に応じて各種の設備等が新設又は改善がなされている。施設設備は、受験生にとっては志望校選択の大きな要因となっている。	計画内容に御賛同いただき、ありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
194	きれいな校舎にしてほしい。学食がどの学校にもほしい。水泳部がある学校を増やしてほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
195	トイレ等が一定キレイになってきたとのことだが、施設全体の老朽化に対して、壁の塗り直しや内装等のリニューアルを期待したい。ネットワークが遅いことがあると聞いた。改善をお願いしたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
196	高校の授業料の月額を100円値上げし、教育設備と教育内容の更なる充実を図ってほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
197	このご時世、HR教室だけでなく実験室などにもエアコンが必要であるとする。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
198	施設・設備の老朽化と空調設備の整備をしてほしい。 私学との格差が拡大しているのに、私学に通う生徒に多くの資金が与えられるのは不公平だと思う。 私学の実態として、定員以上に生徒を入学させて、その学費を公的資金で賄うのはおかしい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
199	京都府北部の今後の少子化は懸念されており、更なる地域活性化は学校の魅力化にかかっている。そうした意味でも、特に北部地域の学校への設備投資が重要と考える。各校舎の老朽化は著しく、行きたい、通いたいという気持ちを引き出せてはいない。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
200	提案のように、「学校施設等の整備」を計画的に、また速やかに行ってほしい。 ・空調設備の更新は喫緊の課題である。 ・一人一台端末を必須化するのであれば、小・中・特別支援学校のように生徒が使用する端末は公費負担で措置してほしい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
201	・府立高校の特色化、魅力化のためには、教員数・人材の確保、事業を行う上での予算、施設設備の充実が欠かせない。特に老朽化した施設の速やかな改修、改善及び新しい時代に必要な教育環境の充実が魅力づくりにとって極めて重要であるとする。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
202	教育は未来への投資であるため、そのための施設にも投資をしてほしい。特に、新しいスタイルの全日制高校の開設や、高校における特別支援教育の推進にあたっては、これまでの職業系専門学科とも、座学中心だった普通科とも違う、魅力的で教育効果の高い施設・設備が必要ではないかと想像できる。府立高校が施設・設備面でも改善していくように期待している。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
203	○全ての高等学校にランチカフェが必要(設置と未設置がある)。私学は全て設置されている。社会の変化により、全ての者が弁当を持参できるわけでもない。また、生徒達の友好場として利用 ※電子マネー利用可で、コンビニ機能も装備できるのなら尚ベター。タブレットにて予約等。 ○体育館等の運動施設や、特別教室の空調整備が必要。 ※HR教室だけで授業はしていない。例えば、理科の実験室講義室・家庭科教室等○空き教室の再利用。⇒ 各校実態に合った「生徒癒し室」「談話室」等 ○自転車置き場から昇降口まで天井つき通路。(大多数の学校で自転車置き場が独立しており、レインコートを脱いでも、まだ傘をさし昇降口へ行かなければならない。) ○トイレ改修。各学校1棟は全面改修済みであるが、まだまだ改修が必要である。1棟だけ改修しても、未改修の棟があるとみずばらしいと感じる。 ○老朽化した校舎の外壁や、廊下・階段の内壁の塗り替えをするだけでも見た目が変わる。 ○立地条件の悪い学校に対してスクールバスの導入	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
204	学校施設・設備への投資が不十分である。私立高校と比較して大きく見劣りがする。 せめて、トイレ改修など、比較的低予算でできることを早急に実施してほしい。 京都府も府立学校へ予算を投じてほしい。他府県では、酷暑への対策で体育館への冷房設備の設置が進んでいるところもある。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
205	私立高校は、入学者から高い学費を徴収しそれを施設設備の充実に図ってきた歴史がある。一方、公立高校は、限られた予算の中で老朽化してきた施設設備をなんとか改修・維持しているという状況である。現在、公的資金の投入により私立高校の学費負担が軽減され、公立との差がなくなっている状況においては、施設設備が整った学校が選ばれるのが自明の理であり、このことが公立高校の定員割れを引き起こす要因となっている。ぜひ、公立高校の施設設備の充実を図っていただきたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
206	財源等の課題はあるものの、府立高校の学校施設等については老朽化が進んでいるものが多い。各校の体育施設においても改善が必要なものが多くみられる。生徒の健康面・安全面を考慮し、老朽化が進んだ施設については至急、改築・改修をお願いしたい。 また、私立高校では体育館においても空調設備が整備されている。昨今の状況を考えても、文化祭、部活動等を安全に行う上でも、空調設備の整備が必要ではないか。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
207	・高校の体育館に冷房設備、もしくは暑さ対策を講じてほしい。 ・体育館のトイレやグラウンドのトイレが汚い。グラウンドのトイレについては外から丸見えの状態なので、見えないように扉を付けるか、スペース的に難しいようであれば男女兼用でもいいので「外から見えるトイレ」は改善してほしい。 ・グラウンドが石ころまみれになっていて試合などの時に危ないため、砂を入れた方がよい。選手がケガをする可能性が非常に高い。生徒・選手を守るためにもお願いしたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
208	現在、京都府立田辺高等学校では、工業に関する専門学科の実習において、全ての学科が実習服もしくは、白衣を着用して授業に当たる。この実習服で授業を実施するのは、将来仕事に就いた場合、製造業では、実習服(制服)を着用し作業するのは当たり前で、暑いからといって、実習服を脱いで作業をするということはいけなことであるとわかるよう実施している。 しかし、昨今の7月～9月までは、気温が30度を超える日が続き、クーラーのない実習室では、脱水症状による、熱中症や体調不良を訴える生徒が年々増加傾向にある。また、生徒を指導している教員も同様の服装をしているので、教員の体調管理(職場環境)も劣悪なものとなっている。実際私も、実習が終わると、大量の汗をかき、脱水症状となり、頭痛や体調不良など軽度の熱中症が頻繁に起こる。学校側に実習室のクーラーの設置をお願いするが、「予算がない、または、使用頻度の低い実習室にはつけれない」との返答が帰ってくる。数年前にホームルーム教室には、クーラーが常設され、職場環境は改善されているが、生徒がより積極的に実習に参加できるよう実習室のクーラーの設置を要望する。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
209	以下の内容は、京都府立田辺高等学校の一年電気技術科で、「教育委員会に要望したいことはないか」というアンケートを実施し、回答があったものである。 ・田辺高校の3棟(工業棟)の実習室のエアコンとエレベーターをつけてほしい。エレベーターに対しては、骨折した時に階段を上がるのに苦労した、夏場エアコンが無かったら人によっては熱中症になる確率が高い。 ・「授業中の中座をなくして欲しい。」という意見が複数あった。この授業中の中座は、学校により決められたものだと思われるので、全日制の学校がこれに当てはまるかはわからないが、意見としてあった。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めるとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
210	昨年、子どもの高校受験に際して、公立・私立含めて複数の高校について検討した。教育内容等については、それぞれの学校に特色や魅力があり、非常に悩ましかった。ただ、トイレの綺麗さ等の施設面ではやはり私学のほうがかなり魅力的だった。最終的には、通学時間等も考慮して家から最も近い府立高校を受験入学したが、エアコンが設置されていない教室があったり、老朽化した施設があったり、子どもからは不満の声を聞いている。私学なみにとは言わないが、学習環境の一層の整備をお願いしたい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
211	歴史のある学校が増えている分老朽化している。危険箇所も増えているので、専門的な点検が必要ではないか。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
212	教育環境は大切。京都市立高校は学校がどんどん新しくなっている。府立高校も、校舎を新しくするなど、もっと整備を進めてほしい。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
213	施設・設備は早急に対応する必要があると考える。私立高校や市立高校に比べるとほとんどの学校で、明らかに見劣りがする。また公立の中学校の改築や改修が進み、それと比較しても大いに見劣りがする。特にトイレについては、今どき公立中学校でも和式トイレの学校は少なく、そのことが公立高校選択の大きなネックになっていると思う。	御意見を踏まえ、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
第2章 今後の府立高校の在り方 5 公私協調による高校教育の充実		
214	京都府あんしん修学支援制度は、収入が一定以上の家庭は無意味となっている。また、私立高校への進学が増え、府立高校が苦戦している現状には、この制度の存在も考えられ、一長一短であるとする。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
215	提案のように、「京都府公立高等学校協議会」で「公私比率」の協議をすべきである。 資料P24にあるように、この10年で公立高校全日制-5.5%、私立高校全日制+1.7%、他府県全日制+0.8、広域通信制+2.8%と公立高校全日制の「一人負け」の状態となっている。広域通信制への流失が大きい要因は、私立高校が定員以上の生徒を入学させていることも、公立(府立)高校の定員割れの一因となっていると思う。 とはいえ、公立高校と私立高校が生徒の獲得を巡って、競争を激化させることは避けるべきである。ともに京都の教育を支える立場で、定員を超えた過剰な生徒確保に走ることはないよう、毎年、「公私比率」を確認することが必要だと思う。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、公私協調を進めてまいります。
216	公立高校からの私立高校への優秀な人材の流出に、府教育委員会は危機感を持つべきである。人材確保についても設置者間協議の議題に挙げてほしい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
217	京都は、私立高校の数が多く、本府の教育にも非常に大きな貢献をしている。もちろん、広義の公教育をも担っている。在籍生徒数も公立:私立でほぼ拮抗している。したがって、公立(府立)高校の在り方を論じる際には、私立高校側との協議が当然不可欠である。生徒数を巡る緊迫したやり取りは当然想定されるが、本府生徒の現在と未来の教育を更に発展させるため、真摯な開かれた協議を引き続きお願いしたい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、公私協調を進めてまいります。
218	「公私協調による本府公教育の更なる充実に向け、議論していく必要がある」とあるが、一部の私立高校がバランスを欠いた人数を入学させており、そのしわ寄せが公立高校の定員割れという形に結びついている。公的資金を投入して私立高校の学費補助を行っていることが、結果的に公立高校の衰退を招くような事態が起きていることについて大きな矛盾を感じる。実質的な公私協調を実現するためには、国や府の行政の強いリーダーシップが必要であり、ルールを守らない学校には「あんしん修学支援制度」等の対象から外すなどの措置が必要なのではないか。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。

御意見の要旨		府の考え方
第3章 今後の入学者選抜の在り方		
219	隣県にある市に普通科を設置している公立高校や私立高校があるが、私立高校に通えるものの、公立高校には府県を跨いでしまうため、通学が不可能である。 中学生が異なる府県の公立高校を受験できるよう、柔軟に進路選択できる仕組みを構築していただきたい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
220	内申点重視の選抜方式に加えて、私立高校・大学受験のように、学力検査の点数のみで合否が決まる方式を広く採用していただきたい。 現在の選抜方式は内申点が重視されすぎる。 中学1年の保護者面談の頃から、内申点について指導されることで、教師に気に入られるよう、教師に合わせた勉強の仕方を強いられている気がする。 内申点の評価は妥当性も信頼性も決して高いものとは言えずかなり疑問があるが、その波及効果・社会的帰結が高すぎる。 現在の内申点重視の選抜方式の結果、進学できる高校の幅が制限され、結果として似たような雰囲気やレベルの生徒が集まる高校ばかりができてしまうと思う。 勉強ができるようになるタイミングやきっかけ、勉強への動機付けの高まりのタイミングについては、長期的な視点が必要であり、中学校3年間の内申点が高校入学後も同様であるとは限らない。生徒を対象にした、内申点と高校・大学進学後の学力の関連性について検証しているのか。 また不登校の生徒への対応としても内申点重視は決してよくない。 生徒の可能性を狭めて学力が同様の生徒を取る高校を増やすのではなく、内申点重視の選抜と受験当日の学力考査のみでの選抜、両方を少なくとも同じ比率にし、多様な生徒を受け入れることが多い魅力ある高校づくりの前提となると思う。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
221	現在の高校入学選抜方法は複雑でわかりにくい。また、私立高校との競合で年々決定が早期化している。前期選抜で定員を上回る希望があるものの、中期選抜では定員割れをする学校が多く、前期で不調な場合に私立高校に決めてしまうケースが多いのではないかと。 私立高校とも共存できる形を協議しながら、適切な時期に入学者選抜を改善し、基本的に1回の入学者選抜とし、セーフティネットとして第2志望合格等を設けたり、現在の後期選抜のように、1回の入学者選抜の合格発表後に定員を満たしていない高校は行き先が決まらなかった生徒向けの追加選抜を行えば良いのではないだろうか。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
222	地元の生徒が最寄りの公立高校に入学できないシステムが公の役目を果たしているとは思えない。自由選択は私立の役目ではないかと。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
223	広島県のように、本番のみの選抜に戻せないのか。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
224	入学者選抜において、私立高校が実施日を早めたり、入試方法を変更することで中学生が最後まで学習しなくなった。中学生及び保護者の早く、案に進路を決めたいという流れを変えないと、難しい部分がある。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
225	現在の入学者選抜方法は分かりにくいので、できるだけ早期にシンプルなものにしていただきたい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
226	生徒や保護者は早期に進路を決定する傾向にあり、中期選抜の受検まで頑張れる生徒が少なくなっていると中学関係者から聞いている。 私立高校が有利な状況を何とか打開できないか。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
227	現在の中間案に賛成である。 現在の入学者選抜は、社会的な変化の中で課題が生じてきていると思う。急いで成果と課題を検討することは非常に重要であり、明らかになった課題に対しては、選抜制度の見直しをしていくべきだと考える。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、より良い入学者選抜の在り方について検討してまいります。
228	現行制度では、100%募集学科以外の学科の定員が少ないため、前期選抜で多くの不合格者が出る。そのため、同じ高校を再度、中期選抜に出願して合格する、または受験をしない状況がある。 また、選抜制度そのものが複雑であり、わかりづらいという意見もある。これを変えるべきと考える。現在の前期選抜の日程の頃に、中期選抜と合わせて1回の選抜と現行の後期選抜にするのが良い。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
229	今後の入学者選抜の在り方については、市立高校と府立高校を分けて実施するなどの抜本的な見直しの視点も必要ではないかと。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
230	入学者選抜は10年が経過し、分かりにくいというよりも中学生の意識（早く決まりたい意識の高まり）、私学への支援などの状況が変化していることは間違いない。選抜間隔がタイトな点や受験生の多い前期選抜の定員が少ないこと等、様々な状況により、口丹地域ではこれまでにない400人以上が私学に進学した。現行の前期の募集を30%から引き上げないとこの傾向はより顕著になると思われる。 教育活動の内容をより充実させて府立学校のソフト面の充実を図るだけでなく、老朽化した施設を改修するなどハード面の改善を図り、府立学校の魅力を打ち出すことが大切だと考える。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討するとともに、府立高校の魅力化を進めてまいります。 なお、魅力ある府立高校づくりにおいては、学校施設・設備の整備は快適な教育環境確保や魅力化に重要な要素であり、施設・設備の充実を着実に推進できるよう、基本方針を検討してまいります。
231	選抜制度の改善については、スピード感を持って進めてほしい。現在の選抜制度の課題が指摘されるようになって久しい。また、京都市や私学との協議をしっかりと行ったうえで、京都府の子どもたちをどのように育てていくかという視点で考えてほしい。府立・市立・私立で生徒の取り扱いを行っていても、それが子どもたちにとって良いことかどうか甚だ疑問である。公私協議を十分行い、京都府の高校入試全体のしっかりとした設計図を描いてほしい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
232	京都の公立高校選抜の、前期で多くの不合格者を出すにも関わらず、中期でかなりの数の高校で定員割れを起こすという形は公立高校の選抜として異常である。府市双方が関わっている京都府の中核となる選抜がこの異常事態であることを、府民全体の問題としてとらえ、大改革を行ってほしい。入口の改革なくして、高校改革はありえない。各校がどんなに魅力化に向けて努力し、中学生がその魅力にひかれて志望しても、入口の選抜が機能不全であれば、努力や志望が無駄になる。 現行のように、高校の入学者選抜が2月から3月まで長期にわたることにより、中学校生活の最後の大切な1か月が受験に振り回されることにならないように、これらの選抜が一時期に、スムーズに行われることを追求すべきである。従来からの公立のセーフティネットとしての機能は維持しつつ、私立・公立の選抜がほぼ同時期の2月上・中旬に行われ、速やかに自分の入学する高校が決まり、中学生が最後の1か月を充実させて生活できる形にできないか。 本計画が今後10年にわたる計画であるなら、これまでの10年にこだわらない、大胆でありながら、これからの時代にあった選抜改革をお願いしたい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
233	現在の前期、中期の選抜日程は、私学との競合を考えると、前期不合格になった時点で私学に流れる傾向が強い。受験生の負担軽減、教職員の入試業務の負担軽減、入試制度の単純化等、多角的な観点から、新制度の検討、構築を進めてもらいたい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
234	現行選抜制度では、シンプルなはずの前期選抜は定員に対する合格者の割合が少なくチャレンジして諦める、一方中期選抜は複雑かつ最終的な合格先が読みにくくこれまで我慢できない、という弊害がある。大学受験で言われる「安近少」は高校選抜にも当てはまるのではないか。やはり早い時期（前期選抜、私立高校入試から1週間くらい）に前期選抜と中期選抜を一本化して実施するのがよいと思われる。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
235	入学者選抜制度が非常に分かりにくい。選抜回数の原則1本化と実施時期の早期化が不可欠。予算の見通しがないなら制度で私学に対抗するしかないのでは。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
236	・前期～後期と3種類の選抜により、セーフティネットが敷かれていると感じる一方、制度の複雑さ、分かりにくさを改善すべきであると感じる。 ・地域差もあると思うが、前期選抜での大量の不合格者のうち、中期選抜で同じ学校の同じ学科に合格している生徒がかなりいるのではないか。不要な不合格体験をさせていること、前期選抜不合格により府立高校以外を選択するようになる生徒が一定数いることが課題ではないか。 ・2月に実施される選抜での募集人員を増やしてほしい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
237	現在の選抜は、主に中期と後期の「2回の入学選抜」というイメージがある。前期選抜については、専門学科は100%内定により特別問題点はないものの、普通科については多くの学校が30%内定のため、多数の不合格者を出すことになる。前期選抜では、多くの中学生が「ダメもと」との思いで受験をするが、不合格により保護者・中学生は不安を感じ、早期に決まる私立高校への志望変更となるケースが多いと聞いている。 上記の理由及び立て込んだ日程の解消、分かりやすい入試制度等を鑑みて、一時期（1回）での入学選抜への変更が良いと思える。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
238	現行の制度を見直す必要があると思う。前期選抜で不合格となったものの中期選抜で合格する生徒や、前期選抜では定員を超える志望があるが中期選抜では定員割れになっている府立高校もあるようだ。 前期選抜・中期選抜、2回も必要なのか。現行の中期選抜の制度をいかした見直しを検討してほしい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
239	何回かチャンスがある現在の入学者選抜を保護者や中学生が、利用できているとは言いがたい。早く合格を決めたい、という気持ちが保護者・中学生とも強く、よさが生かし切れない。 選抜の機会は1回でよいのではないか。選抜では5教科を課す。5教科をしっかり勉強することは、高校進学後の大学入試や探究活動にも生かされ、将来の進路選択の幅も広がる。 入学者選抜における各校の特色は、5教科を受検したうえで、小論文・面接などを実施することで、明らかにすることができると思う。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
240	最近の中学生は、全体的に早く進路を決定したいという傾向にあり、前期選抜で不合格になった生徒が私学へ流れ、中期選抜で定員割れをしている公立が増えてるように感じる。 また、「京都府あんしん修学支援制度」の浸透により、私立へ進学する傾向があるが、授業料については一定の支援はあるものの、その他の費用がかかり金銭的負担は大きい。 そういった点で、公立の前期選抜の募集定員を増やしていただくなど、希望する公立高校へ合格できるように選抜制度の見直しをお願いしたい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
241	現行制度は定着しており、一定の成果があったと思うが、生徒の多様性の事を考えると、見直しが必要である。関係者の代表でしっかりと議論をお願いしたい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
242	入学者選抜については前期選抜の枠が狭すぎて、挑戦して不合格となった子供の心のケアが心配である。不合格後中期選抜に向かわせるのに苦労すると聞いている。現在の制度を見直すという方針には大賛成である。一刻も早く見直すべきだ。1回の選抜だけではだめなのだろうか？	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
243	10年の節目に、選抜制度の改革をぜひお願いしたい。 ・もっと早い時期に実施してほしい。 ・前期選抜の募集人数をもっと増やしてほしい。志望する高校の中期選抜で合格できる学力層(中位から上位層)なら、前期選抜で合格させても良いのではないかな。 ・現在の複雑な仕組みを、誰にでも分かる仕組みに変えてほしい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
244	複数回の受検機会の確保等、セーフティネットを確保する点、受験生や学校に負担感が少ない点、私立高校との併願が容易になるようにする点など、入学者選抜制度改革の方向性について記載すべきでないか。	現行の入学者選抜制度の成果と課題を検証し、よりよい制度にするための検討を進める旨をお示しております。見直しを実施する場合は、実施計画で明らかにしてまいります。
245	現行の入学者選抜制度は、従来2月に実施していた推薦入試と特色選抜等を前期選抜として分かりやすく統一するとともに、3月の中期選抜では、普通科と職業学科の区別なく志願を可能とし、加えてステップ方式でセーフティネットを備えるという、大変良くできた制度であった。 しかしながら、私立高校に対する「あんしん修学支援制度」が始まり、前期選抜可否発表後私立高校の合格者に対する囲い込みもあり、公立高校離れが大きく進んでしまっている。 本来公立高校を第一志望としながら、大量の前期選抜不合格者が発生し、失意のため中期選抜まで頑張り抜けない受験生が私立高校に流れてしまうのは、現行の選抜制度が制度疲労を起こしていると言わざるを得ない。また、中学校、高等学校ともに、時間が限られる中で前期、中期と2回の選抜を実施するのは、教員の負担も大きく、働き方改革の面からも、1回にまとめることが望ましい。その際、セーフティネットに配慮し、受験生の安心を担保する必要がある。 提案としては、以下の5点である。 ①現在の前期選抜の時期に、前期、中期をまとめ、募集定員100%の選抜①を実施する。 ②その後、合格発表①は2月中に行う。 ③定員に満たない学科についてのみ、3月上旬に選抜②を実施する。 ④その後、合格発表②を中学校の卒業式までに行う。 ⑤選抜①、選抜②ともに、セーフティネットが機能するよう複数志願を工夫をする。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
246	これまでの入学者選抜では普通科と専門学科の2つに大別されてきたが、今後、普通科系専門学科の増加が見込まれることから、普通科と専門学科の区別をせず、志願者にとってわかりやすい選抜制度がよいと考える。 これまでの入学者選抜では2月初旬から3月下旬までの2ヶ月間にわたって様々な選抜を行ってきたため、高校における授業や進路指導、学校行事等の実施にあたり選抜業務が過重な負担となっている。選抜制度を見直す際には、セーフティネットの役割を大切にしながらもよりシンプルな制度とし、高校、中学校双方の業務負担軽減につながる制度をめざしてほしい。 入学者選抜の見直しにあたっては、特別入学者選抜の見直しを含めて検討していただきたい。例えば、中国帰国孤児子女特別入学者選抜の継続有無、特定の高校のみを対象とした長期欠席者特別入学者選抜の継続有無等である。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。

御意見の要旨	府の考え方
247 現行の入学者選抜制度は、主に前期選抜と中期選抜である。 前期選抜は単独選抜であり、募集人員は主に募集定員の30%であり、多くの受検生が不調となる。人生で初めての受検で不調となるのは精神的な負担が大きいと感じている。さらに、中期選抜までモチベーションが続かず(保護者も含めて)、私立高校へ進学する傾向が増大している。 中期選抜においては、第1志望(第1順位、第2順位)、第2志望と最大3校(学科等)まで志望することができる。セーフティネットとしての制度は必要であると考えが、受検生等にとっては非常に複雑な制度となっている。 また、京都市・乙訓通学圏、山城通学圏、口丹通学圏の受検生(中学生)にとっては、通学利便性を考えると、京都市内に数多くある私立高校への進学(通学)が可能であり、公立高校と私立高校間で生徒の争奪が生じている。さらに、私立高校の募集定員(男女枠を含めて)と実際の入学者数の乖離が大きく、その是正も必要であると考え。 ・公立高校の入学者選抜制度自体がシンプルである ・原則、1回とし単独選抜だけでなく第2志望(最大2校)も希望できる制度 ・選抜日は3月上旬(6日)までには実施 ・検査項目は、受検生にとってシンプルであり、大きな負担とならない 少子化が急速に進む中、京都府教育委員会と京都市教育委員会が連携して、早期に入学者選抜制度の改革を期待している。併せて、私立高校の募集定員と入学者数の適正化についても関係機関と協議していただきたい。(越権行為となるかと思うが、私立中学校の募集定員と合わせて協議していただきたい) 公立高校だけでなく私立高校を含めた協議の上、選抜制度の改革が行われることを期待している。 なお、改革を実施する際には、中学生やその保護者、中学校の混乱を防ぐために遅くとも中学2年生の前半(夏季休業前:できれば6月前半)に選抜制度の詳細の公表をお願いしたい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
248 試験のための勉強ではなく、興味を持って探求する学びを通して自ら学ぶ力を育むことができる高校づくりのためにも、選抜方法を見直すことも考えていただきたい。毎日掃除をピカピカにがんばった子ども、1人でお話を書くことに熱中した子どもなど、評価対象にならないことにも価値がある。人間の魅力考えた時、授業だけでは評価はできない。一人ひとりの魅力を見守る教育を行ってほしい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
249 「今後の入学者選抜の在り方」の意見に賛同する。学科試験なしにするなど、入試制度の選択肢を広げてほしい。	計画内容に御賛同いただきありがとうございます。御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
250 京都府内のどの学校でもいけるようにしてほしい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
251 入試制度が分かりにくいと、まわりの保護者からも声が聞こえてくる。また、前期選抜の定員をすべての入試で増加させて欲しい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。

御意見の要旨	府の考え方
学習塾を経営しており、長年の指導の中で、入試についての以下の点について改善していただく方がよいと感じる。 ① 入試に通知表の得点を加算するのは望ましくない。入試得点だけにするか、通知表の得点比率を極端に下げるかの方がよい。 ② 前期試験後の中期試験の負荷を下げた方がよい。 ③ 公立校に行きたい生徒が、もっと行きたい公立高校に行ける仕組みにするのがよい。 ④ 入試の合格最低レベルを開示した方がよい。 ①通知表の加点が望ましくない理由。 現在、中学校の通知表評定のつけ方(基準)には学校間で非常に大きな差がある。一例を挙げれば、A中学では模試の偏差値が50点台後半でも「3」しかつかないのにB中学では偏差値40点台後半で「4」がつくということがある。そもそも中学の定期テストの難易度にも大きな差があり、同じ80点だとしても学力は雲泥の差である。中学の三段階評価はテストの得点だけを重く見るものではないが、教員の主観によって判断される部分が多く、日頃生徒と1対1で長時間接している身からすると、学力以外も含めた生徒の力をうまく評価してもらっていないと感じるケースが多くある(時には生徒・保護者に評価の根拠を中学校に尋ねさせるが、合理的な説明が返ってこないケースすらある)。このような大きなばらつきを含む通知表評定が、中期試験では入試のほぼ半分以上を占めており、入試の公平性の観点で大きな問題があると言わざるを得ず、ぜひ改善していただきたい。 (私立高校ではこの問題を解決するために、通知表の評定を中学ごとに補正して評価されることが少なくない) ②中期試験の負荷を下げた方がよい理由 現在の入試(共通テスト)は前期3科、中期5科で、前期で不合格となった場合、理科と社会のテストが増える。しかし、前期で合格を目指すとうとすると、前期まではどうしても国数英3科の勉強に力を入れざるを得ない。しかし、前期で不合格になると、そのあと理科・社会まで入る試験を受けなければならない、受験生にとっては学習の負荷が高い状況になっている。前期不合格のショック(というより、実は周りだけが合格したことこのショックが大きい)と、さらに多くの科目を勉強しなければならぬという精神的な負荷に耐えられず、「中期はもう受けたくない」という心理に追い込んでしまうケースがある。前期試験前にも理科・社会を学習しておけばよいと考えられるかもしれないが、目の前の前期試験ではなく、その先の中期試験の対策を行うことは、理科・社会に時間をかける分、国語・数学・英語の学習量が減り前期合格の可能性が下がり、受験生心理からしても「不合格時のために次の次の対策を行う」のは、難しいことである。したがって、受験の負荷は中期試験の方を下げる方が望ましいと考える。 なお、希望者は必ず入試を2回受けられる現行制度は、受験機会を増やすという点で大きなメリットがあるので、維持していただくのが良いと考える。(私立高校も現在、B日程や1.5次と名付けて違う高校を2回受けることが可能になっているので、受験機会が2回あることは公立・私立間の公平性を損なうものではないはずである。) ③もっと公立高校に行ける仕組みにするのがよい理由 現在の入試制度は前期試験で多くの不合格者を出してしまう。中期試験では第一志望第二順位で救済される仕組みだが、その恩恵を受けるには、第一志望の学校よりレベルや人気が一段階下がる学校を選ぶしかなく、そこまで行きたいとは思えなかった学校を選ばないといけないケースがある。授業料を補助する仕組みがだいぶ整ったとはいえ、私立高校ではそれを超える部分の費用負担が大きく、私立に通わせるのは「経済的理由で絶対に無理」というご家庭が少なからずある。したがって、公立を希望する生徒が、行きたい公立にもっと行ける仕組みに改善するのが望ましいと考える。 ちなみに私立高校なら自分の学力に合った学校をきちんと選べば、大多数の学校でほぼ100%不合格になることはない。「私立なら第一希望に行ける、公立は第一希望に行けるかわからない」という差は、不安に陥りがちな受験の中で、私立高校に生徒や保護者をなびかせ、「公立離れ」を引き起こす一因になっている。私立高校は学力レベルが満たされていればほぼ100%合格するという状況なので公立希望者がほぼ100%公立に行けるという仕組みを構築しても、公立・私立間の公平性は損なわれないと考える。 ④入試の合格最低レベルを開示した方がよい理由 現行の入試制度は、どのくらいの得点で合格できるのかが全くわからないので、どうしても安全志向になり、塾がいくら合格の可能性があると伝えても、「裏付けない見込み」としてしか保護者には伝わらず、挑戦しようという気持ちになってもらえない。また、公立を受験しようすると、私立高校は併願になり、受ける私立高校のレベルを下げざるを得ない(併願の方が合格ラインが高い)ため、「その程度の私立しか併願にできないのなら、公立受験は止めて、専願でレベルがもっと高い私立にする」という考えに流れてしまう。合格最低ラインが開示されれば、もっと説得力のある受験指導ができ、受験生自身のやる気も増す。今は、目標がわからないのに「やみくもに頑張れ」と言っているような状況で、受験生や保護者が不安にならない方がおかしいとすら言える。そのような中では、受験指導する側の塾、さらには公立中学の現場が、確実に合格が得られる私立高校を勧めたくなくても仕方がない(指導現場、特に公立中学校が安全志向に走ることも、公立離れの一因であるが、合格ラインがわからないため、それを責められない)。 合格ラインの最後の一人の得点を開示しなくても、例えば下位5%の合計得点の平均を開示するなど、色々な方策があるかと思うので、ぜひご一考いただきたい。 よく「序列化につながる」という反論を高校の先生方や府教委の方から受けるが、百歩譲って序列化につながったとしても、その序列を打ち破るべく各公立高校が競争されるのが、健全なあり方ではないか。また、仮に序列らしきものが形成されたとしてもそれはあくまで入り口(入学)の序列でし、出口(卒業時)の成果(どういう人間に育てることができたか)で勝負すればよいだけの話だと思う。たとえ入学時の序列が低くても、「あの学校は立派な生徒に育ててくれる」ということになれば、入学得点だけの序列を問題視する保護者・生徒はいないはず。個別の公立高校間での競争の緩さが、公立高校の危機感と向上心の低さにつながり、いつの間にか今のような公立離れにつながってしまったと感じている。(大げさではなく「生死をかけて」どんなことをしても生徒を確保するという気持ちで学校を改革し、募集活動を行われている私立高校の先生方を見ると、公立のゆるさを感じずにはいられない。しかし、だからといって、無条件に私立の方が優れていると感じているわけではない)。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
252	以上を踏まえて、実現すればよいと思う入試の一例は以下のとおりである。 A) 2回は入試を行い、ともに共通試験で1回目5教科、2回目3教科。同一難易度の問題にする。通知表の得点は加算しない。 B) ただし、1回目の試験は学校ごとに独自試験を行うこともできるとする。 C) 1回目の入試では定員の例えば5割の合格者を出す (比率は検討が必要だが、現行の前期の合格者割合「3割」よりも比率は上げる)。 D) 2回目は残り定員で合格者を出す、1回目と2回目の受験校は同じでもよいし、変更してもよいとする。 E) 1回目の入試の志望校は一つのみとする(第一志望、第二志望などを設けない)。 F) 2回目の入試は志望校を3つまで選べるものとし、単純に得点上位者から、一人ずつ第一志望→第二志望→第三志望の順に合格判定を行う。(入試で高得点の生徒から希望を聞くことができる形にする) 「1回目の入試より2回目の方が合格の可能性が上がり、受験の負担は下がる。かつ、得点の高かった生徒から希望が通り、不公平になる要因はなくす」というのが私の意見の要点である。	
253	・公立の前期では100%募集する学科もあるものの、普通科は30%と枠が小さく、志願者数に対して多くの不合格者が出ている。そのため1回の選抜で100%募集すればいいのではないかと感じる。 ・2月後半になると私学の合格者と公立前期の合格者がクラスの7～8割を占めるため、残された生徒がかわいそうである。公立ももっと早い時期に100%合格ができればそのような生徒もいなくなるのではないかと感じる。(不合格となる生徒もいるだろうが・・・) ・ステップ方式は生徒の志望より学力の高い生徒が合格する制度となっており、生徒目線では不公平でないかと感じる。ステップ方式について必要かどうか検討すべき。 ・住んでいる場所によって、志願できる学校と志願できない学校がありややこしい。家から通いやすくて志願できない学校もある。普通科であってもそれぞれの学校がそれぞれの特色を出しているため、どの地域からでも本当に生徒が行きたい学校に志願できるよう、通学圏の有無について検討すべき。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
254	現在の多段階選抜は、府立高校定員割れの大きな原因になっている。前期選抜で不合格となった多くの中学生が私学や通信制に流れるからである。また「ランク」を落として自宅から遠い学校や不本意な学校に合格した生徒が、その後転退学していくケースも見られる。これは中学校・高校双方の教員にとって、非常にやるせない悩ましい問題である。 また前期選抜の中でも、部活動実績を重視する入試は非常にその基準が不明瞭で、強化指定部活動の顧問以外の教員からしてみればブラックボックス化している。顧問同士の間で合格が約束されている実態があるのではないかと感じる。入試の公平性という点でいかなるものかと思う。学力がふるわない生徒が部活動実績を買われて入学することもありうる。また中学校からしてみれば、前期選抜で合格した生徒が落ち着いて授業に向かえなくなる＝勉強しなくなる実態もある。発達段階的に見ても、前期選抜が中学生の学びにとってプラスになっているとは思えない。 以上のことから多段階選抜は廃止することが望ましい。募集にあたっては、普通科35人学級、職業学科30人以下学級を早期に実現してもらいたい。アンケートでも望まれているように、地域の学校(徒歩や自転車を通える近くの学校)へ優先的に進学できるような選抜制度にしてもらいたい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討するとともに、個別の施策に関する御意見につきましては、施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
255	選抜が2度実施されるのは、中学生にとっても制度が複雑で分かりにくいと感じるので、シンプルで分かりやすい形での実施を検討してほしい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
256	1. 次の状況は公立高校中期受験者の一般的なものである。そこから、受験生、高校、中学現場の問題点を汲み取り、解消する方向で入学者選抜改革を行ってほしい。 府南部の多くの高校は、「普通科単独校」である。中学の進路指導では、私立高校との併願指導はもとより、平均2.5倍、最高6倍に及ぶ倍率の公立高校「前期選抜」をほぼ全員受けるように指導され、人生で始めて受験の厳しさを味わい、自信をなくす。その落ち込んだ気持ちを切り替える間もなく、前期合格発表から数日で中期選抜の受験校を決めなければならない。そこで迷いが出て、「私学へ行く」「ランクを落として公立を受験する」生徒が後を絶たないと中学の進路指導主事が言っている。 府南部の普通科では、「前期選抜」段階で全体の定員を越える志願者を集める学校はわずかしかない。本来なら、そのまま志望校に全員合格となる普通科がほとんどなはずである。ただ、前期選抜の普通科系専門学科が不調だった、私学へ行かない比較的成績上位の受験生が、「中期選抜」で普通科に流入するため、自分に自信を持ってない生徒にはプレッシャーとなって、先のように軒並み志望校を変更する傾向が起きている。 2月中旬の私立高校の合格発表以降、2月下旬の公立高校の前期合格発表を過ぎると、中学3年生の教室では進路未決定者は一桁になるといふ。進路が決定した中学生たちは気もそぞろで、落ち着いた授業空間づくりも、卒業に向けた取組も難しいと、中学の教員は現在の入試制度へ理不尽さへの恨み事を隠さない。ただ、一番苦しんでいるのはプレッシャーを抱えて公立高校の中期選抜に挑まなければならない受験生である。 ①当面、普通科35人学級、職業学科30人以下学級の実現を ②府立高校「定員割れ」の原因を作った多段階選抜(前期選抜)は廃止を ③「希望者全入」時代に相応しい選抜制度の構築で、地域の学校への優先的な進学保障を 2. 公立の強みを生かし、生徒が居住する地域との協働を進められるような選抜制度改善を行ってほしい。 ①普通科に入学した生徒の「学校選択の理由」は、「自宅から近い・通いやすい」「合格できそう」「入部したい部活動がある」という順であった。これを踏まえた学校配置や選抜制度を求める。 ②広域から通学する私立高校が所在地の自治体と協働する学びを行うのとは異なり、公立高校の強みとして、自らが居住する地域と協働の学びを行い、愛着をもてるようにするべきではないか。そのためには、自転車を通える近くの学校への進学を優先できるような選抜制度を構築すべきである。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
257	地域と結びつき、地域を愛し、地域を振興していく生徒を育てるためにはバス停方式とは言わないまでも、地元住民の子弟が地元の学校に通うことが北部ならずとも市内でも必要なのではないかと。学校が地元のハブであってこそ地域の協力も得られるのだと思う。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
258	入学者選抜制度は、中学生保護者にわかりやすいシステムであることが大事である。現行のステップ方式は複雑でわかりにくいこと、また特に普通科は、中期選抜が募集の中心であるにもかかわらず、受検者が減少している状況があると思う。公立高校の定員は府民のためのものであり、中学生の負担に配慮しつつ、この定員ができるだけ充足するような制度の構築、各方面との調整をお願いしたい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
259	保護者には現行の入学者選抜制度についての問題点はわからないし、中学生の子どもは与えられた制度の中で頑張るしかない。基本計画の第3章に書かれているように問題点があるということがわかったので、それを解消できて、多くの子どもが安心して高校へ行ける制度はどのようなものと考えているのか。【基本方針】には具体的に示されていないので可能なかぎり示してほしい。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
260	・前期・中期の一本化を図り、入試の時期を2月中旬に早める。 ・全国規模で活躍する部活動について、全国募集が可能な種目を拡充し、寮などの受入体制を整備する。 ・定員を満たしていても、及第点をとれないのなら、不合格にできるような仕組みも必要ではないか。（生徒数確保には逆行してしまうが。）	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
261	今後の入学者選抜に関して、現在京都府は中一の内申から入試に関わっている。 家庭で子どもを見ていて、小学校卒業したてのまだ半分子どもが、中学に入った途端に、どのようにしたらどの教科も担当の先生からよい評価がもらえるのだろうということを気にしながら日々生活している。 それも大事だが、自分が何に興味があるか掘り下げられる大切な時間を、常に評価を気にして過ごすというのは、人生においてとてももったいないことだと感じる。 中学3年間は、成長過程で色々あるが、内申は中学1年生からでなく、2年生の学年末以降または、3年生のものを見てもらえたら、自分自身に向き合えるのではないかと。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
262	高校入試の仕組みが複雑で分かりにくかった。これまではなかった前期選抜があるだけでも驚いたが、学校によって前期選抜の募集割合が違ったり、第2希望、第2順位などわかりにくい用語が出てきたり、もう少し中学生や保護者にわかりやすい入試にしてほしい。私学も含めて複数回受験できたのはとてもよかった。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
263	現在の制度である前期・中期選抜では、中学生にとって2回チャンスがある一方、前期で不合格なら私立高校へ行ってしまう例も多いのではないかと。また公立高校の中期選抜を受検し受かっている例も多い（募集人数が多いので）ではないかと。チャンスは減るが、私立高校への流出を少しでも減らすには、現在の前期選抜の時期に1回で募集する形にしてもよいのではと思う。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
264	選抜については現在2回実施されているが、中学生からはわかりにくい部分もあると思うので、検討が必要だ。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
265	入試については、前期・中期・後期ではなく、1回にできないのか。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。
266	入学者選抜の在り方について、前期入試が2月15日、16日、中期は3月7日と期間が短すぎる。子どもたちは、その短い期間の中で①学校の定期考査対策、②前期選抜対策、③中期選抜対策、またその間で私立校対策もしている。第一希望が公立高校なら、本当に最後の最後まで粘って勉強している。さらに、中期選抜では第二希望、第三希望まで書いてしまうため、余計に子どもたちが混乱してしまう。シンプルに1回の試験、希望校も1校に絞る方が子どもたちには楽だ。そのための内申点だ。必要なら滑り止めに私立高校を受ければ良い。京都の高校入試はとても複雑だ。前期、中期と子どもを分断せず一発で決めればよいと思う。	御意見を踏まえ、よりよい入学者選抜の在り方について検討してまいります。

御意見の要旨		府の考え方
その他		
267	「魅力ある府立学校」はそこで働く教職員にとっても魅力的であるべきだと考える。それが実現して初めて「魅力ある府立学校」たり得ると思うが、その点に関する記述がないのは不十分である。是非その施策も立ててほしい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
268	制服のデザインが古すぎる。私立高校や自由服を導入している公立高校を希望する理由としても制服の要素が大きい。デザインが良くない府立高校には行きたがらない。 また、研修旅行先も、スキーではなく、東京やディズニーランドが無難である。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
269	授業内容のレベルアップを望む。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
270	府立高校改革にあわせて、小・中学校の学ぶ力や学力を向上させる手立てが必要である。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
271	ブラック校則について、校則改善は、生徒の大きなニーズの一つである。各高校の生徒にも、校則についてのアンケートをとってほしい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
272	特別支援学校の普通科は通学可能な地域に限られており、自由に他地域の普通科を設置している特別支援学校へ行けない。通学バスを使わずに電車で行ける子どももいるため、特別支援学校の閉鎖的体質を変えるためにも通学区域の自由化をしていただきたい。また、ある特別支援学校は重度・中度・軽度とクラスが分けられており、同じ学校の中でも校舎が分かれている。インクルーシブの目標のためには、クラス分けをしないでいただきたい。 また、国・算などの教科を学力で分けるのは理解できるが、生徒会活動も軽度のクラスのみ、音楽・体育も一緒に行うことはなく、関わりがなく、校舎も別になっているのが現状である。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
273	近年問題となっているいじめ、ハラスメント等の人権侵害に対する教育的提言と対策が見られないが、教育委員会はこれらの問題を軽視しているのではないか。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
274	長時間の自転車移動通学、急な坂道の途中にある高校への通学など、ヘルメット着用の普及がなかなか進まない中で、安全面、通学の不便さが気になる。通いやすい環境も整えていただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
275	普通科系専門学科の設置、府立大学附属高校化、インクルーシブ教育環境、通級による指導等、新機軸の取組が取り上げられているが、教育現場の働き方改革が努力していても計画どおりに進まない現状において、新たな負担を教職員に強いるならば、十分な教員定数の確保、教職員の採用、研修等を計画的に行っていただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
276	病気や産前産後休暇、育児休暇で教職員が休んだ場合、代わりの先生がなかなか入らないと聞いている。また、70歳代、80歳代の教員も身体の辛さを押して教壇に立っていると聞く。正規の教職員で欠員補充ができるような体制をつくってほしい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
277	不登校経験生徒や特別な支援を要する生徒など、多様な生徒が入学してくる状況で、個々の生徒への柔軟な対応が求められるが、働き方改革もあり、教職員にこれ以上の負担を求めることは厳しい。特に、今以上のきめ細やかな対応を求めるのであれば、スタッフの人数を増やすか1クラスの人数を減らすかが妥当ではないか。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
278	偏差値の高い高校、低い高校にはそれぞれに合った指導力のある教員が手厚く配置されている傾向にあるが、中程度の高校にはどうしてもその分手薄になりがちなので、教員の力量は大きく偏らないようお願いしたい。教員の熱意や指導力は子どもたちに伝わるほか、進学後のモチベーションにも影響する。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
279	「府立高校」として「地方公務員の育成」にも矜持をもって取り組んでほしい。具体的には、キャリア教育の一環として、生徒が教職員との交流機会をもち、「質の高い地方教育の基盤となる人材を育てる」という視点で展開してほしい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
280	・通学時間が長い生徒は1時間目はオンライン形式で、ライブではなく(ビデオ方式)通学途中や、帰宅後に受講できると良いと思う。スクールバスも考えてほしい。(または授業時間数を減らして始業時刻を今より遅くしてほしい) ・今の高校生を見ていて7時間授業は多(長)過ぎると思う。必要な単位数を減らすことができれば下校時刻も早くなり、放課後の時間をより有効にゆったり使えるといいと思う。 ・5教科以外の授業がもっと増えるといいと思う。大人になってから人生を豊かにしてくれる教科があれば良い。また、成績に出ない生徒の一面を見ることができるので、友人関係も深くなると思う。 ・中学生が高校見学できるオープンスクールはとても参考になっている。 ・補習時間を放課後でなく、時間割に組み込んで、自学自習または生徒同士で学び合ったりする時間にしてほしい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。

御意見の要旨		府の考え方
281	高校生は、雨天時でも公共交通機関または徒歩・自転車などを利用する。駅や停留所が自宅から離れている場合、朝は家族の出勤に合わせたとしても夕方は自力で帰宅する必要がある。積極的に公費を投入するなど、通学の便を一層向上させていただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
282	私立高校への進学に際しては、就学支援制度での恩恵が得られるが、公立高校への進学に際しては、(一部の高校を除き)目に見える形での恩恵が少ない。施設・設備での見劣りなどをカバーする、府立高校進学者への支援があってもいいのでは。(〇〇は京都府から支給など。)	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
283	妊娠・出産した子どものための保育所又は保育室を設置していただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
284	家庭環境により学習継続が困難な子どもに対する支援策として、家事全般を担わなくてはならない子どもの昼食、家事代行の無償制度を創設していただきたい。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
285	・京都府の高校で日本中の高IQの子ども(ギフテッド等)が飛び級で学べると親も引越しい人口増加になるのではないかな。 ・海外の富裕層ギフテッドも特別料金で受け入れれば、子どもの能力にも国際社会にも寄与できる。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
286	全体的に、市立高校の方が私服等の校則がゆるく自由にさせているイメージがある。わが子は府立高校に通学しているが、とても校則が厳しく教員の指導も厳しい。子どもが豊かな発想をするには自由な校風、なんでも言える雰囲気が必要だ。時代と逆行しているといえる。さらに、小学校、中学校に関しては学校への保護者アンケートが定期的にあったが、高校ではない。改善されてこなかった理由はここにあるのではないかな。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
287	意見を求めたいのであれば入力フォームくらいあった方がよい。今の時代にこのやり方はありえない。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。
288	意見・提案の収集方法について、幅広く意見を集める場合に、郵送、メールとファックスという手段はどうなのだろうか。小学生・中学生の意見を聞きたいのであれば、メールアドレスを持っていないであろうし、家にファックスがないという場合も多い。FormsやGoogle Formを使ってもよかったのではないかな。	個別の施策に関する御意見につきましては、今後の施策・事業検討の際の参考とさせていただきます。